Van Campen

Nov. 1956

鮪漁業　第四十一号　昭和三十二年七月十日発行（毎月一回十日発行）

鮪漁業

Tuna Fishing

FAVIGNANA (TRAPANI) - PESCA DEL TONNO

鮪の大網（定置）
ーイタリアー

FAVIGNANA - PANORAMA

フアビニア港（左に煙突のあるのが缶詰工場）
ーイタリアー

第28黒潮丸　坂井真澄氏寄

APR 1958
LIBRARY
POFI
FISH & WILDLIFE SERVICE

鮪漁業　研究会

July

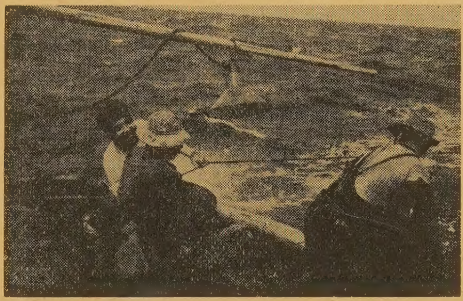
No. 41, 1957

倉敷
ビニロン

クレモナ　**万漁**

鮪延縄◆ロープ◆漁網

くさらない
使いやすい
値も安い



クレモナ鮪延縄　神奈川水試江の島丸

倉敷レイヨン株式会社

本　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町　2の4

▷最高の技術＝＝永い信用◁

営業種目

VHF新聞通信社用
ビーコン装置
超短波通信機
極超短波通信機
高級無線用測定器
放送施設一式
船舶用無線機
ラジオヒーター
高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150
電話　砧（41）（代）7171—9番
電話　武蔵調布472番
東京営業所　東京都港区芝西久保桜川町　9
電話　芝（43）代表7373—9番
大阪出張所　大阪市北区中之島2の25（江商ビル508号室）
電話　北浜（23）4553番
福岡出張所　福岡市天神町55（伊藤ビル）
電話　中（4）2589・8198番

—目次—

鮪漁船紹介　第15金毘羅丸　第三興栄丸

鮪漁場図　（昭和31年11月操業）

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和31年11月現況）……1

1. 調査の概要……1

2. 漁況の概要……1

3. 各漁場の漁況……2

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和31年11月操業分）別表1……10

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和31年11月操業分）別表2……14

鮪類漁場別価格昭和32年3月（三崎）……農林事務官 佐藤 務…23

相模丸による大西洋鮪漁場開発事業第三次航海の概要……27

中南米太平洋岸沖合のマグロ漁況と海況について（1）……29

第28黒潮丸坂井通信士のイタリアだより……33

業界メモ……34

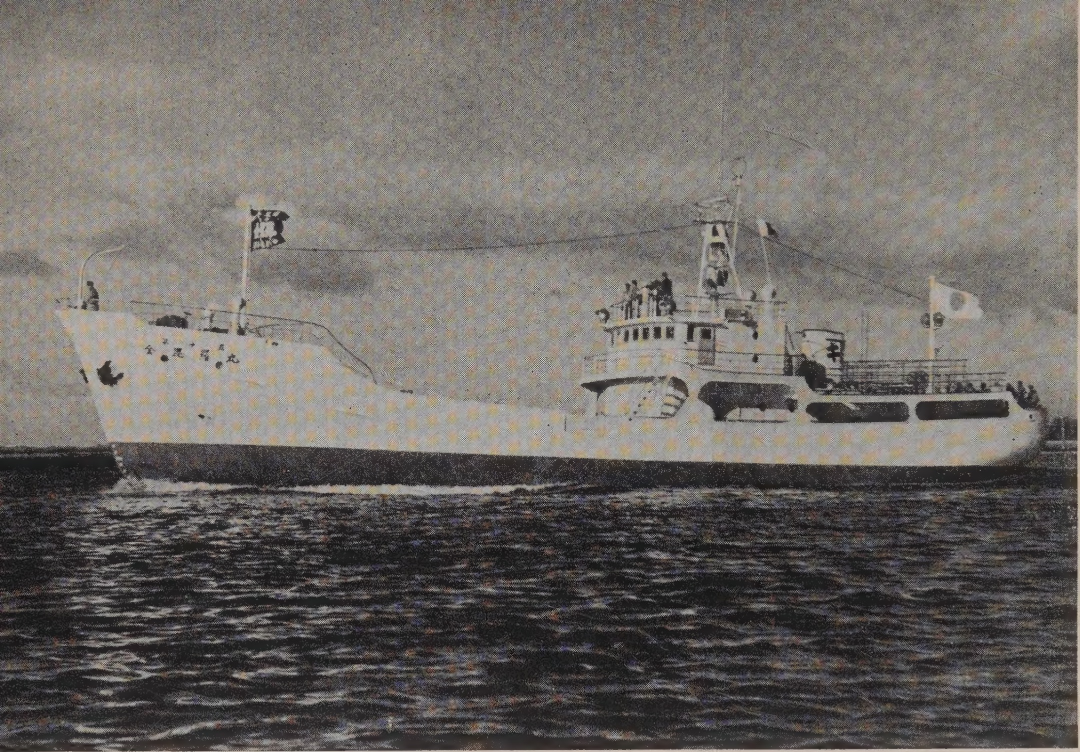
鮪類水揚価格表（三崎）昭和32年5・6月……35

強くて・安くて・腐らない

鮪延縄に絶対経験と信用のあるメーカー

クレモナ
テビロン
国産製麻株式会社

本社　東京都中央区京橋三丁目四番地　電話東京（28）6605・6606番
工場　栃木県鹿沼市朝日町 電話(鹿沼)242・243番 同上野町 電話(鹿沼) 377番

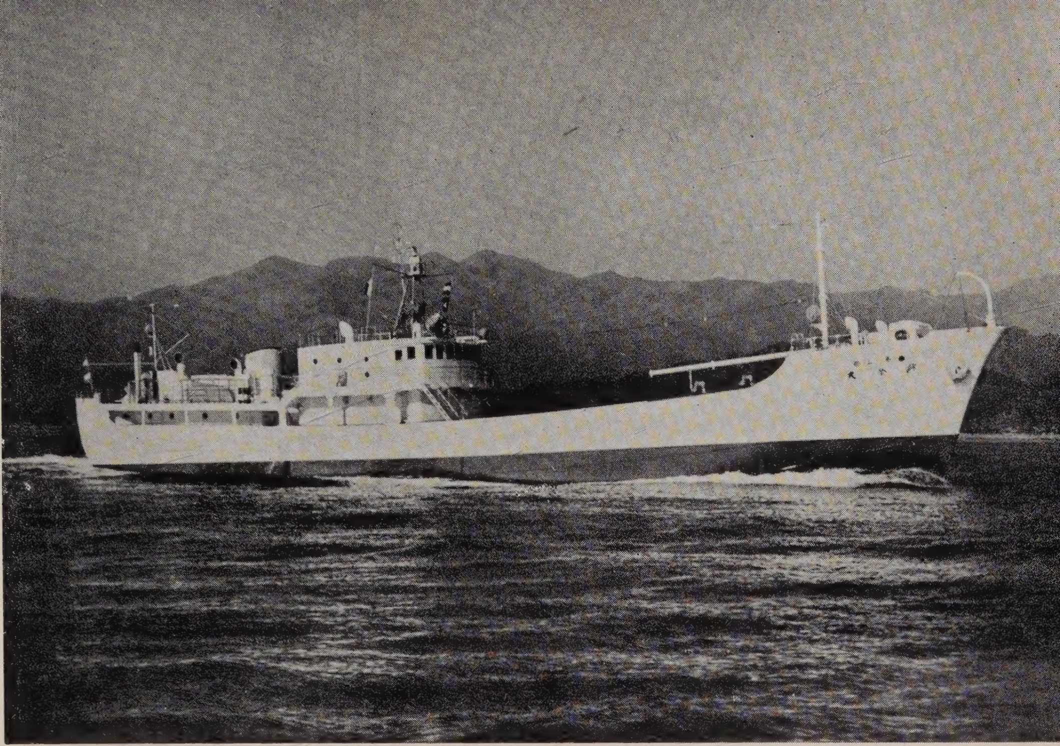


第15 金毘羅丸

船主	辺見文雄（石巻市）	
造船所	株式会社 山西造船鉄工所	
主要寸法	長 37.70m× 幅6.80m× 深3.40m	
総屯数	262.32屯	
魚艙容積	277.81m^3	
燃料油艙	133.23m^3	
速力	11.88節	
主機	デーゼル 550HP	1基
補機	デーゼル 120HP	1基
無線	150W．75W	各1基
冷凍装置	（東洋製作所） アンモニヤ直膨式 6吋×6吋 4A4B	各1基
方向探知機，魚群探知機其の他		各1式
竣工	昭和31年12月25日	

株式会社 三保造船所

本社 静岡県清水市三保3766 電話 代表 2200
東京事務所 東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705 電話 (27) 5522.6775



第三　興栄丸

船主	見崎伝右衛門（焼津市）
造船所	株式会社 三保造船所
主要寸法	長 42.80m× 幅7.50m× 深3.85m
総屯数	352.92屯
魚艙容積	370.52m^3
燃料油艙	187.45m^3
速力	最大　12.159節
主機	デーゼル　750HP　1基
補機	デーゼル　100HP　2基
無線	200W．75W　各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式　40HP　2基
レーダー，方向探知機，音響測深及び魚群探知機 其の他	各1式
竣工	昭和31年12月26日

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金指造船所

本社工場　清水市三保4010—19　電話　清水 2380〜2 3796〜7
塚間工場　清水市三保弁天492　電話　清水 3870〜7
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話　芝(43)7296〜8
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話（三浦）851

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　　社　大阪市北区中之島3の3　（朝日ビル）TEL.北浜（23）9736—7（直通）
1334.2351.9531
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL.銀座（57）6804.6810.6811
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL.清水　3507
三崎サービスステーション三浦市三崎町西野34　金指造船所三崎出張所内TEL三浦851

施工船名
第31 宝幸丸
第1 水神丸
大盛丸
第18 海王丸
第18 新造丸
秋津丸
（其の他約参百隻）

赤阪デイーゼル

各種漁船，捕鯨船，冷凍運搬船等の主機及び補機に！

50馬力—4,000馬力

株式会社 **赤阪鉄工所**

本　　社　東京都中央区銀座1丁目3番地（千成屋ビル）
電話 京橋（56）4902～3番
大阪出張所　大阪市西区奥美町30　電話 新町（53）3602番
工　　場　静岡県焼津市　電話 焼津（代表）2121～5番

◇新時代の冷凍機◇

（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設

設計・製作・施工

株式会社 **東洋製作所**

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎（49）代表2171—9番（49）2170.6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話（36）代表 0974—5（36）2171—9（内線350—1）

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

(昭和31年11月現況)

三崎　鮪漁業研究会　(調査研究部)
神奈川県水産試験場　(資源調査部鮪担當)
東京，燒津　南海区水産研究所　(遠洋資源部)

1　調査の概要

昭和31年11月分として調査した鮪延繩船数は169、体長測定船数は115、調査海区数は26で、10月より更に増えている。

2　漁況の概要

(キハダ)

0°—20°N, 140°W以東の海区では初めて5°N以南が調査されたが不漁期にもかゝわらず1.95とかなり高い鈎獲率、ハワイ南西、同南東海区は不漁、トンガ、タヒチ海区は上昇期であるが前者は低率、旧南洋庁沿海南部は極めて好漁、ソロモン海区は好漁で特に10°S以北、170°E以東の好漁は異例、ニューカレドニヤ海区は上昇途上、南支那海は中程度、バンダ、フロレス海区は好漁、東部印度洋105°E以東は上昇し始め、中部印度洋海区はあまり高くなく、西部印度洋海区は最低率である。

(メバチ)

20°N以北、180°—140°Wの漁場は好漁、ハワイ南西、同南東海区と旧南洋庁沿海北部、同南部の5°N以北は不漁、南支那海は好漁期であるがあまり高くなく、バンダ，フロレス海区は中程度、東部印度洋105°E以東は海域によつてまちまち、105°E以西の6°—10°Sは好漁、北部太平洋も好漁である。又、トンガ海区の32°—33°Eに2.8の高率を呈する魚群が出現したが、此れは興味ある現象である°

(ビンナガ)

トンガ海区は中程度、タヒチ海区は好漁、ソロモン，ニューカレドニヤ海区のクツクタウン沖とブリスベーン沖、及びクリストバル島東方を除く10°S以南の海域はなお好漁、印度洋は全般的に不漁、北部太平洋は東北方から好漁になり始めている。

(インドマグロ)

東部印度洋のインドマグロは10月から激減して1.0となつた。

(クロカワ)

太平洋赤道以北は不漁、以南は上昇し始め、東部印度洋は好漁期であるが低率、中西部印度洋海区は低下の途上である°

(シロカワ)

コーラルシーのクックタウン沖は最盛で10月と同様好漁である。

（マカジキ）

180°—140°W の30°N線の魚群は消滅、北部太平洋の35°N, 150°—155°E附近は好漁、トンガ海区の22°S, 180°—178°W附近とニューカレドニヤ海区のブリスベーン沖が好漁、東部印度洋は全般的にかなり減つたが16°S, 114°—120°E附近では好漁、中部印度洋海区は稍好漁である。

（メカジキ）

北部太平洋のメカジキは40°N, 170°—175°Eで好漁であるが10月より稍低い。

3 各漁場の漁況

A 140°W以東、赤道以北の漁場

（0°—20°N, 140°W以東の海区）

5°N, 127°W附近で1隻調査されているが、此の附近は西流の南赤道流域にある。

（キハダ）

11月の1.93は、昭和29, 30年の11月に比し極めて高い釣獲率であるが、此れは、29, 30年が5°N以北の赤道反流域で操業した船が調査されたのに対し、31年11月は5°N以南の南赤道流域が調査されたためである。低下過程にある。

（メバチ）

釣獲率3.56で昭和29年と同率、30年より稍高い。

（クロカワ）

冬季の不漁期に入り0.33と低率である。

B 180°—140°W, 20°N以北の漁場

（30°—40°N, 180°—140°Wの海域、ミッドウエー海区、20°—30°N, 160°—140°Wの海域）

180°—175°Wでは36°N, 33°N, 30°N, 26°Nで各1隻、30°N線の175°—160°W°で6隻、ハワイ諸島ガードナー島北東で1隻、160°—140°Wの30°—33°Nで7隻、28°N, 160°Wと27°N, 150°Wで各1隻が調査されている。170°—164°Wの30°N線では西流がみられるが、海域によつて北東流のみられるところもある。

（メバチ）

ガードナー島北東附近、28°N, 160°W附近、30°—32°N, 160°—147°Wが濃密で、2.0—4.0の率、160°W以西の30°N線、27°N, 150°W附近は稍落ちて1.3、35°N, 180°W附近とミッドウエー島南東附近では1.0と更に低い。

30°—40°N, 180°—140°Wの海域としては、夏季からの漸増を続け好漁期に入り、ミッドウエー海区も上述のように海域によつて非常な差があるが好漁期に入つている20°—30°N, 160°—140°Wの海域は、8月から10月にかけて上昇し11, 12月には好漁期に入るものと推察されたが、11月は1.57と8月よりも低率となつた。しかし、西の方はそれ程低率ではないので、12月は再び上昇するものと推察される。

体長組成は10月にはつきりしていた91—100cmの山が、11月には101—110cmに

移つて111—120cm の山と合一した。81—90cm に山のみられた30年11,12月とは異つている。

（ビンナガ）

35°N, 180°W 近くでは夏季から次第に上昇して1.65と高い。体長組成は10月より稍型が小さい。

（マカジキ）

ガードナー島北東附近のみで 0.57 と釣れているが、10月まで好漁であつた 30°N 線の魚群の消滅と何らかの関係があるかもしれない。体長組成は全海域10月より著しく型が大きい。

C　180°—140°W, 0°—20°N の漁場

（ハワイ南西海区 50°N 以北、同南東海区 5°N 以南）

ハワイ南西海区はジョンストン島南東で1隻、同南東海区はファンニング島北東と3°N, 143°W 附近で各1隻が調査されているが、3°—5°N, 150°—140°W では西流がみられ、此の附近は南赤道流域にある。

（キハダ）

ハワイ南西海区 5°N 以北は不漁期に入り0.33で低率、同南東海区 5°N 以南も不漁期に入り8月の7.90から1.93と激減したが、前者に比較すればかなり高い。

体長組成は10月，及び30年10月とは同型であるが、30年11月よりは型が大きい。

（メバチ）

ハワイ南西海区 5°N 以北は不漁期で低率1.40，同南東海区 5°N 以南は低下途上で中程度の率であるが、前者に比較すればかなり低い。

体長組成は10月と殆んど変化がないが、同南西海区 5°N 以北に新に91—100cm の山が出現した。此の傾向は30年には12月にみられて居り、31年は稍早い。

（クロカワ）

南下洄游により激減し、不漁期に入りハワイ南西海区 5°N 以北が0.24，同南東海区 5°N 以南が0.31で低い。

D　180°—140°W，赤道以南の漁場

（トンガ海区，タヒチ海区）

トンガ海区ではトンガ島附近で1隻、西方で1隻、東方の170°W 線で2隻、遙か南方の32°S,175°—170°W 附近で1隻、タヒチ海区では北東端のハオ島附近で1隻が調査されている。

（キハダ）

タヒチ海区は上昇過程にあり0.97，トンガ海区も上昇期であるが31年11月は全海域低率である。原因は不明。

タヒチ海区の体長組成は10月と同型であるが、トンガ海区は非常に好漁であつた。7月より型が小さく、モードも二つに分かれている。

（メバチ）

トンガ海区の32°—33°S, 175°—170°Wで2.8の高率、23°S, 170°Wで0.7を呈しているが、此れはニユーカレドニヤ海区24°Sの西端の魚群と共に重要な意味をもつ様に思はれる。体長組成はニユーカレドニヤ海区8月の魚群と略同型である。

（ビンナガ）

タヒチ海区は10月より上昇して3.27と極めて高率、トンガ海区は南北略平均して居り1.9—2.3で此の海区としては中程度である。

タヒチ海区の体長組成は、10月と同型である。

（クロカワ）

タヒチ海区は140°W線であるが10月より低率で1.29, トンガ海区は22°S, 180°W近くが特に濃密で0.5,全般的に夏季からの上昇過程にある。

体長組成はトンガ海区よりタヒチ海区の方が型が大きい。

（マカジキ）

トンガ海区の22°S, 180°—175°W附近が0.4—0.6, 20°—24°S, 170°W附近が0.1—0.3, 平均した0.30の率は30年10月と同率であり、12月も高率を呈するものと推察される。体長組成は30年と同型である。

E 旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海北部、同南部）

旧南洋庁沿海北部では18°N, 132°Eと11°N, 172°—179°Eで各1隻, 同南部では130°—140°N, 5°N以北7, 同以南1, 140°—145°, 5°N以北1, 以南5, 両海域にかけ1, 150°—160°E, 5°N以北で2隻が調査されている°

海流は135°E, 7°—11°Eが西、7°—8°N, 163°—167°Eも西流である°

（キハダ）

旧南洋庁沿海北部170°E以西は30年以前より低いが、夏季の低率から上昇して0.70, 同以東は極めて低率である。

旧南洋庁沿海南部、5°N以北170°E以西は8月から上昇して来て1.60, 5°N以南170°E以西は9月から10月へと激増したが、11月は10月と同率で極めて高率で4.90を呈している。しかし、此の高率も遠からず3.0附近にまで低下するものと思はれる。

南洋南部170°E以西のキハダの体長組成は31年11月は10月と同様101—120cmの小型魚が主で121cm以上特に131cm以上は極めて少く、全般に前年度以前に比べて非常に型が小さい。この傾向は31年4—6月頃の91—100cmの若年魚の増加に、その最初の兆候が見られ7,8,9月が未測定のため、はつきりしなかつたが10,11月に至つて明瞭に小型魚が主力となり、中、大型魚が減少してきている、このキハダの小型化は殆んど同じ時期にソロモン海域にもみられ、赤道を中心とした南北10°N, 130°—170°E附近の相当廣はんなキハダの中心漁場全般にみられるが、この様な傾向は27—30年度迄略一定していたこの水域のキハダの魚体組成が大きく變化してきたことを示している様で、今まで続いてきた、この水域のキハダの平衡状態に何等かの変調を來していると思はれ、今後注意する心要があらう。

（メバチ）

旧南洋庁沿海北部 170°E 以西はなお不漁であるが7月以降僅かに上昇して来て、0.5, 以東も不漁期で1.70である。同沿海南部 5°N 以南は好漁期であるが、160°E 以西はあまり高くない。以北の130°—140°E も上昇期であるが未だ不漁、140°—150°E は9月から上昇して0.8で5°N以南としては高率である。

表 1　旧洋庁沿海各海域のメバチの漁況（31.11）

	130°E–140°	140°–150°	150°–160°	160°–170°	170°–180°
20°N–10°	0.65				1.07
10°–5°	0.90	1.20	1.20		
5°–0°	0.15	0.80			

体長組成は30年11月と同型である。

（クロカワ）

南下洄游によりかなり低率となつた。

F　ソロモン，ニユーカレドニヤ海区漁場

（ソロモン海区，ニユーカレドニヤ海区）

ニユーギニヤ北方で3，ニユーブリテン島北側で1，ソロモン群島北方と東方で各2，赤道近くの 163°—172°E で 4，コーラルシー 13°—18°S 帯西端のクックタウン沖で15，その東方 154°E 附近で 1，ニユーカレドニヤ島西方と西南方で各 1，26°S 線西端ブリスベーン沖で1，フイジー島南方23.3線で1隻が調査されている（漁場圖参照）。

海流は、2°S, 163°—164°E，で西、クックタウン沖では 14°S 以南は沿岸にそつて南、14°S 以北の稍沖合では北、13°S では西流もみられる。

（キハダ）

10°S 以北、170°E 以西は非常に高率であるが5°Sを境に北側は以南よりかなり高く5.6、以南は4.1である。此の好漁は29年以降みられている不漁期中の瞬間的な好漁で、間もなく低下して3.0程度となるであらう。10°S 以北、170°E 以東も不漁期であるが、31年11月には初めて4.2の高率で、異例現象を呈した。

10°S以南のソロモン海区はソロモン群島南端クリストバル島東方の1隻が非常な高率7.8を呈しているが此れは特異な現象であつて、全般的には3.1—3.6で好漁期である。

ニユーカレドニヤ海区は上昇途上にあり中程度の率1.44であるが、10月とあまり差はない。

ソロモン海区の体長組成は 101—110cm にモードがあり、121—140cm にモードのある30年10, 11月の組成と全く異つて型が小さくなつている。此の傾向は131—150cm にモードのある29年10, 11月とも異つて居り、又、海域全般的の傾向なので注意する必要がある。

ニユーカレドニヤ海区は変化がない。

（ビンナガ）

10°S 以北は未だ不漁、クリストバル島東方附近は收斂線以北にあるものの様でキハ

ダの多獲に対しビンナガは全く釣れていない。又、本誌前号（P.5）で記述したようにクックタウン沖も不漁、他は全般的になお好漁で、10°S以南のソロモン海区3.1, ニューカレドニヤ海区2.2を呈している。体長組成は10月と、又30年11月とも同型である。

（クロカワ）

上昇し始めたところでソロモン海区はかなり高率になつたがニューカレドニヤ海区は未だ低率である。170°E以西は5°S以北より5°—10°Sの方が高率、10°S以南のソロモン海区は0.51, クリストバル島東方は非常な高率で0.69, クックタウン沖は極めて低い。

（その他のカジキ類）

クックタウン沖のシロカワは10月と同様最盛期で2.04—2.08, ニューカレドニヤ島西方のマカジキは0.50で若干釣れているが、漁場が擴がつたと共に、25°S, 附近では本誌前号（P.5）の豫想通り1.0に上昇して極めて好漁となつた。

シロカワの体長組成は、ソロモン海区は10月の191—200cmの山が181—190cmと201—210cmの二つの山に分かれたが、151—160cmと181—190cmに山のある30年10月と大分異つている。

マカジキは201—210cmに山があり、31年10月、30年10月とも同型である。

G 西太平洋漁場

（南支那海）

10°N, 112°E附近で1隻が調査されている。

（キハダ）

夏季からの低下途上にあり1.86で中程度である。冬季にかけ更に低下すると思はれる。

（メバチ）

好漁期で晩夏よりは上昇した様であるが31年11月はあまり高率ではなく31年6月と略同率の0.59である。

H 東部印度洋漁場

（バンダ, フロレス海区、小スンダ, チモール沿海、ジヤワ沿海、濠洲西方海区、スマトラ西岸沿海）

バンダ, フロレス海区はセレベスのブツン島東方で5, 小スンダ, チモール沿海ではチモール島の北より附近で4, スンバ島とフロレス島の中間で1, 10°—15°S, 115°—120Eで20ジヤワ沿海では10°S線の南北を東西にわたつて8, スマトラ西岸沿海ではジヤワ島西端ラブハンの南西18°—10°Sで2, 100°E線7°Sで1, 濠洲西方海区では16°Sの117°Eで1, 同じ16°Sの濠洲ブルーム沖で1隻が調査されている。（小スンダ, チモール及びジヤワ沿海は操業船が重復しているので別表1より多くなつている）

海流は名海域とも復雑であるが、大スンダ列島南側では比較傾向がはつきりして居り、ジヤワ南方とラブハン南西は南赤道流域にある。詳細は漁場圖を參照されたい。

（キ　ハ　ダ）

表 2　東部印度洋の各海域のキハダの漁況 (31.11)

	90°E–105°E	105°E–115°E	115°E–130°E
0°–8°S			3.05
6°S・8°S–10°S	2.61	2.35	1.53
10°S–12°S		1.60	1.65
12°S–20°S		1.33	0.72

バンダ，フロレス海区は夏季の低率から激増して好漁期に入り3.5の高率、8°—20°S, 105—130°Eの海域も程度に多少の差はあるが10月の最低率から各海域それぞれ上昇し始めて居り、間もなく好海期に入るであらう。

スマトラ西岸沿海6°—10°Sの海域は31年4月から此れらの海域とは異つた変化をして居り、8月以降は僅かに漸増している°

小スンダ，チモール沿海の体長組成は、10月と変化なく、又、39年12月とも同型である°

（メ　バ　チ）

表 3　東部印度洋各海域のメバチの漁況 (31.11)

	90°E–105°E	105°E–115°E	115°E–130°E
0°–8°S			0.66
6°S・8°S–10°S	2.28	1.46	0.68
10°S–12°S		1.12	0.64
12°S–20°S		0.91	0.27

バンダ，フロレス海区は、31年に到つて3月から6月にかけて0.4から2.9にまで上昇したが、11月は0.66と30年以前の秋季と同率となつた。

小スンダ，チモール沿海10°S以北は好漁期は過ぎたがなお中程度、10°—20°Sは夏季稍高率であつたが冬季の好漁期程高くはなく、又、10月に再低率になつた後11月に再び上昇し始めている°

ジャワ沿海の8°—12°Sは好漁期を過ぎて低下し始めたがなお高率、同12°—20°Sは8月以降変化なく僅かに漸増している。

スマトラ西岸沿海6°—10°Sは夏季より僅かに低いが4月以降かなりの好漁2.3—2.8を続けている。

11月は全般的に西よりに高率となつている。

小スンダ，チモール沿海の体長組成は、10月の二つの山が合一して121—130cmに山が出来たが、30年12月にみられた様な151—160cmの山はみられず非常に異つている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

表 4　東部印度洋各海域のビンナガの漁況 (31.11)

	90°E–105°E	105°E–115°E	115°E–130°E
0°–8°S			0
6°S・8°S–10°S	0.42	0.30	0.01
10°S–12°S		0.25	0.02
12°S–20°S		0.26	0.19

僅かに西よりに率が高いが、どの海域も不漁期で極めて低率、特に東よりは全くの低率である。

（インド　マグロ）

インドマグロは最盛期を過ぎどの海域も10月から激減したが、105°E以東ではジャワ沿海10°S以北以外はなお1.0程度の率を呈している°

（カ　ジ　キ　類）

クロカワは10月に既に好漁期に入つたが、11月は全般的に低率で海域によつては10月より低くなつたところもあり、検討する必要がある。スマトラ西岸沿海6°—10°Sは7月以降漸減して11月は0.27に到つた。

シロカワは全般的に不漁期、マカジキは小スンダ，チモール沿海、ジヤワ沿海は最盛期を過ぎ10月より著しく低下して前者0.25，後者0.13であるが、濠洲西方海区の東比端は0.82で極めて好漁である。

小スンダ，チモール沿海のシロカワの体長組成は10月の201—210cmの山が181—190cmに移つたが、141—150cmの主な山は変化がない。しかし、30年12月は151—160cmの山が小さく、191—200cmの山が大きく、逆の形になつている。

小スンダ，チモール沿海のマカジキの体長組成は、10月は151—160cmより171——180cmの山の方が大きかつたが11月は151—160cmの山の方が大きい。131—140cmの山は變化がない。此れは、151—160cmにのみ山のみられる30年12月とは非常に異つている。濠洲西方海区は小スンダ，チモール沿海の10月と同型で、やはり30年12月と異つている

I　中、西部印度洋漁場

（中部印度洋海区、西部印度洋海区）

9°S, 86E附近で1, 6°—7°S, 73°—76°Eで2, 9°S, 70°E附近で1, 8°S, 60°E附近で1, 3°S, 58°—59°Eで2, 3°S, 50°E附近で1, 5°—6°S, 43°—46°Eで2隻が調査され、東西に廣く分布している。

85°E附近では7°S以北は東、以南は西、72°—75°Eの4°—5°Sは東、5°—8°Sは南東乃至南、西部印度洋の5°S以北は東、5°—10°Sは西の海流であるが11°S, 57°E附近には東流もみられる。

（キ　ハ　ダ）

中部印度洋海区は9月から11月へと激増したが11月は稍低下して3.82，此の海区としてはあまり高率ではない。西部印度洋海区は9月からの低下を更に続け、1月から下り続けで4.54になつた。

体長組成は10月と同型であるが、中部印度洋海区は30年10月より稍型が大きく、西部印度洋海区は稍小さい。

（メ　バ　チ）

赤道以南の此れら海域は以北程好漁とならないが、中部印度洋海区は好漁の8月からの低下を続け、西部印度洋海区も好漁期を過ぎて10月から著しく低下した。率は前者0.66，後者0.72であるが、前者は船によつて非常に異り、各船の率は0.35，0.46，0.84である。海域との関係は明瞭でない。

（ビ　ン　ナ　ガ）

両海区とも不漁期で全くの低率であるが、西部印度洋海区の11°S附近では1.54の率がみられる。

（カ　ジ　キ　類）

クロカワは、中部印度洋海区は9月から10月へと僅かに上昇したが再び著しく低下して春季からの低下をたどつて居り、西部印度洋海区も夏季からの低下を続けている

中部印度洋海区のマカジキは船によつて非常に異るが凡そ 0.22—0.47 で、平均すると10月より稍低くなつている。此の海区としては好漁期である。

J　北部太平洋漁場

40°—45°N, 150°—180E の海域、35°—40°N, 150°—180°E の海域、30°—35°N, 150°—180°E の海域、伊豆東方海区、南海々区、西部太平洋亜熱帯海区）

42°N, 153°Eで1, 35°—40°N の 150°—160°E で 11, 160°—170°E で 1, 170°—180°E で 4, 30°—35°N の 150°—160°E で 9, 160°—170°E で 2, 170°—180°E で 2, 伊豆東方海区 2, 南海々区 8, 西部太平洋亜熱帯海区では 130°—140°E で 1, 140°—150°E で 6, 150°—160°E で 5 隻が調査されている。

海流は漁場圖參照の事。

（キ　ハ　ダ）

南海々区は 0.23 で此の海区としては中程度の率、西部太平洋亜熱帯海区は、9, 10 月は 0.35 であまり高率ではなく東方海区のように 11 月に稍上昇して0.56となつたが好漁期未期なので間もなく低下し始める°

（メ　バ　チ）

どの海区も好漁期で 1.0 前後であるが、海域により多少のそ密があり、35°—38°N 150°—155°E, 南鳥島附近、30°N, 175°E 附近はそれぞれ 1.2, 1.3—1.5, 2.3 と稍高率となつている。

各海域の体長組成は 10 月と同型であるが 30 年 11 月とは全く異り、30°—40°N, 150°—180°E の海域は三つの山であつたが 31 年 11 月には二つの山になり、西部太平洋亜熱帯海区は稍型が小さくなつている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

東北方から来游中で、東から増えて来ている。31 年 11 月の分布狀態は 表 5 に示す

表 5　北部太平洋のビンナガの分布（31.11）

	130°E–140°E	140°E–150°E	150°E–160°E	160°E–170°E	170°E–180°
40°N–45°N			0		
35°N–40°N			0.26	0.75	1.98
30°N–35°N	0.03	0.42	0.95	2.99	1.79
20°N–30°N	0.03	0.01	0.07		

体長組成は 30 年と殆んど同型であるが、35°—40°N, 150°—180°E の海域の 51—60cm の小さな山は 30 年 11, 12 月にはみられなかつた

（ク　ロ　カ　ワ）

西部太平洋亜熱帯海区のクロカワは不漁期で完全に消滅した。

（カ　ジ　キ　類）

マカジキは 35°N, 150°—155°E 附近で好漁 0.6—0.9, メカジキは 40°N 線 170°—175°E で 10 月と同様好漁 0.9である

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻數	水温(C°)	流向流速	操業回數	漁具數	鈎數		ま	
									きはだ	めばち
0°— 20°N 140°W以東の海区	4°— 6°N 129°—127°W	1	24.8 25.3		16	6,720	31,384	尾數 %	607 1.93	1117 3.56
30°— 40°N 180°—140°W	28°— 38°N 180°—146°W	10	19.2 24.9		252	85,156	364,832		46 0.01	7761 2.13
ミッドウエー	24°— 31°N 179°E—161°W	6	21.8 25.8		146	45,041	206,679		72 0.03	3270 1.58
20°— 30°N 160°—140°W	26°— 31°N 160°—149°W	2	21.5 24.2		60	22,640	103,100		43 0.04	1614 1.57
ハワイ南西 (5°N以北)	7°— 15°N 172°—163°W	1	26.4 28.3		27	10,211	40,844		135 0.33	571 1.40
ハワイ南東	1°— 6°N 161°—142°W	2	25.6 28.4		43	15,119	75,595		1456 1.93	667 0.88
トンガ	19°— 33°S 179°—167°W	5	16.2 26.8		87	28,744	152,120		503 0.33	1042 0.68
タヒチ	18°— 19°S 143°—138°W	1	25.5 26.8		25	10,080	42,670		412 0.97	57 0.13
南洋北部	10°— 19°N 130°—179°W	1	27.6 8.4		20	4,980	22,900		79 0.34	212 0.93
南洋南部 (170°E以西)	1°S— 11 N 132°—160°E	17	28.4 30.2		220	74,641	339,102		9021 2.66	3015 0.89
ソロモン	0°— 16°S 137°—171°E	13	27.3 30.5		174	61,106	297,790		14978 5.03	901 0.30
ニューカレドニヤ	13°— 26°S 144°—180°E	17	21.1 29.8		350	130,703	582,309		8376 1.44	1399 0.24
南支那海	7°— 13°S 111°—113°E	1	25.8 28.9		16	4,887	23,237		432 1.86	136 0.59

CONT.

(昭和31年11月操業分)

(別表1) A

ぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
			102 0.33	2 0.01	15 0.05	6 0.02					1849 5.89	鮫未調査隻数 1 体長測定隻数 0
1072 0.29			157 0.04	3 0.00	203 0.06	62 0.02		12 0.00	370 0.10	934 0.26	10620 2.91	2 8
2 0.00			145 0.07	16 0.01	383 0.19	60 0.03		27 0.01	207 0.10	1071 0.52	5253 2.54	1 5
5 0.00			89 0.09	2 0.00	76 0.07	10 0.01	1 0.00		73 0.07	33 0.03	1946 1.89	1 2
4 0.01			97 0.24	2 0.00	21 0.05	1 0.00				25 0.06	856 2.10	0 1
10 0.01			234 0.31	23 0.03	6 0.01	13 0.02			7 0.01		2416 3.20	2 2
2935 1.93		200 0.13	368 0.24	36 0.02	451 0.30	49 0.03	10 0.01	8 0.01	364 0.24	351 0.23	6317 4.15	2 3
1394 3.27			552 1.29	3 0.01	24 0.06	3 0.01					2445 5.73	1 1
13 0.06			91 0.40		15 0.07	4 0.02			39 0.17	25 0.11	478 2.09	0 1
119 0.04			1017 0.30	38 0.01	12 0.00	44 0.01	241 0.07	62 0.02	262 0.08	585 0.17	14416 4.25	11 7
214 0.07			856 0.29	588 0.20	63 0.02	34 0.01	342 0.11	9 0.00	116 0.04	8 0.00	18109 6.08	11 9
3733 0.64	1 0.00		638 0.11	9464 1.63	1265 0.22	161 0.03	55 0.01	124 0.02	675 0.12	210 0.04	26101 4.48	16 14
24 0.10			9 0.04	2 0.01	3 0.01	7 0.03	9 0.04			3 0.01	625 2.69	0 0

漁場	操業区域	調査隻数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま	
									きはだ	めばち
バンダ フロレス	3°— 8° S 120°—129°E	5	28.6 30.7		96	36,932	162,392	尾数 %	4945 3.05	1071 0.66
小スンダ チモール	0°— 15° S 114°—129°E	18	26.6 30.5		555	216,364	963,656		15010 1.56	5531 0.57
ジヤワ沿海	8°— 12° S 105°—114°E	4	26.2 29.7		111	43,540	188,411		3063 1.63	2121 1.13
濠洲西方	14°— 17°S 114—120°E	2	26.5 28.3		50	17,200	83,160		1020 1.23	100 0.12
スマトラ 西岸	7°— 10°S 96°—105°E	3	27.0 28.4		58	21,480	88,299		2202 2.49	2003 2.27
中部印度洋	3°— 8° S 72°— 91°E	2	27.0 28.6		80	31,969	159,845		6104 3.82	1050 0.66
西部印度洋	1°— 7°S 45°— 70°E	6	25.4 28.9		248	102,490	467,625		21207 4.54	3376 0.72
40°— 45°N 150°—180°E	38°— 42°N 148°—155°E	1	18.4 20.4		20	2,617	21,108		3 0.01	15 0.07
35°— 40°N 150°—180°E	34°— 41°N 149°—179°E	16	16.5 26.2		283	68,410	307,882		115 0.04	3175 1.03
30°— 35°N 150°—180°E	30°— 36°N 150°—178°E	13	19.6 24.4		268	70,598	303,419		127 0.04	3062 1.01
伊豆東方	31°— 35°N 143°—152°E	2	20.6 22.8		31	5,430	21,720		13 0.06	194 0.89
南海々区	33°— 35°N 137°—138°E	8	19.5 24.0		54	8,338	39,732		93 0.23	379 0.95
西部太平洋	20°— 29°N 135°—158°E	12	22.3 28.9		191	47,971	212,780		1186 0.56	2320 1.09
計	26	169			3481	1,172,867	5,302,591		91248 1.72	46159 0.87

（別表１）B

ぐ　ろ			か　じ　き					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
			138 0.08	292 0.18	51 0.03	34 0.02	174 0.11		5 0.00		6710 4.13	鮫未調査隻数 5 体長測定隻数 2
886 0.09		11650 1.21	1290 0.13	2013 0.21	2410 0.25	192 0.02	167 0.02	138 0.01	199 0.02		39486 4.10	18 11
456 0.24		795 0.42	265 0.14	468 0.25	246 0.13	36 0.02	57 0.03	9 0.00	6 0.00		7522 3.99	4 2
1039 1.25		1616 1.94	183 0.22	373 0.45	680 0.82	10 0.01					5021 6.04	2 1
394 0.45		8 0·01	207 0.23	198 0.22	241 0.27	21 0.02	64 0.07	9 0.01	18 0.02		5365 6.08	3 1
55 0.03			149 0.09	91 0.06	330 0.21	28 0.02	14 0.01	8 0.01	43 0.03		7872 4.92	2 1
549 0.12			524 0.11	298 0.06	622 0.13	164 0.04	143 0.03	74 0.02	155 0.03	382 0.08	27494 5.88	4 4
					1 0.00	70 0.33				647 3.07	736 3.49	0 1
2537 0.82	1 0.00		72 0.02	1 0.00	1850 0.60	644 0.21		12 0.00	118 0.04	1625 0.53	10150 3.30	1 16
3781 1.25			94 0.03	4 0.00	1356 0.45	134 0.04	3 0.00	39 0.01	237 0.08	844 0.28	9681 3.19	3 12
92 0.42			5 0.02		126 0.58	29 0.13			6 0.03	38 0.17	503 2.32	1 2
13 0.03			2 0.01	1 0.00	48 0.12	25 0.06		2 0.01	6 0.02	122 0.31	691 1.74	1 3
90 0.04			79 0.04	7 0.00	447 0.21	32 0.02	10 0.00	3 0.00	480 0.23	978 0.46	5632 2.65	3 6
19417 0.37	2 0.0	14269 0.27	7363 0.14	13925 0.26	10945 0.21	1873 0.04	1290 0.02	536 0.01	3386 0.06	7881 0.15	218294 4.12	95 115

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和31年11月操業分）

（別表 2）

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數		50 cm以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm以上	計	漁獲尾數
き	5	30°— 40°N 180°—140°W	28°— 38°N 180°—146°W	118	尾數 %								5 12.8	8 20.5	10 25.6	7 17.9		7 17.9	2 5.1	39 100	39
	5	ミッドウエー	26°— 31°N 179°E-164°W	103						1 1.4	1 1.4		7 9.5	23 31.1	23 31.1	6 8.1	6 8.1	5 6.8	2 2.7	74 100	71 (75)
	1	20°— 30°N 160°—140°W	27°— 31°N 160°—156°W	27										1 4.0	3 12.0	3 12.0	6 24.0	11 44.0	1 4.0	25 100	25
	1	ハワイ南西 （5°N以北）	7°— 15°N 172°—163°W	27								3 3.7	11 13.4	19 23.2	23 28.0	19 23.2	6 7.3	1 1.2		82 100	135
	2	ハワイ南東	1°— 6°N 161°—142°W	43									4 1.3	26 8.2	92 28.8	141 44.2	51 16.0	5 1.6		319 100	1456
	2	トンガ	20°— 33°S 174°—167°W	20								1 2.3	10 22.7	11 25.0	6 13.6	12 27.3	1 2.3	2 4.5	1 2.3	44 100	96
	1	タヒチ	18°— 19°S 143°—138°W	25								1 1.0		7 6.8	19 18.4	53 51.5	20 19.4	2 1.9	1 1.0	103 100	412
	1	南洋北部	17°— 19°N 130°—134°E	10				1 1.8	7 12.5	10 17.9	1 1.8	1 1.8	14 25.0	17 30.4	4 7.1	1 1.8				56 100	56
	1	南洋南部 (170°E以西)	6°— 10°N 158°—160°E	20				8 7.0	4 3.5	4 3.5	2 1.8	35 30.7	30 26.3	22 19.3	5 4.4	4 3.5				114 100	324
は	7	ソロモン	1°— 16°S 144°—168°E	87						8 0.6	180 14.0	392 30.6	327 25.5	194 15.1	119 9.3	53 4.1	8 0.6	1 0.1		1282 100	7611
	11	ニューカレドニヤ	13°— 26°S 144°—180°E	237						2 0.1	11 0.7	56 3.6	227 14.5	288 18.4	365 23.4	507 32.4	96 6.1	10 0.6	1 0.1	1563 100	6302
	4	小スンダチモール	8°— 14°S 114°—129°E	120								1 0.1	111 16.2	392 57.1	129 18.8	44 6.4	8 1.2	2 0.3		687 100	4060
	1	中部印度洋	3°— 8°S 72°— 91°E	32								1 0.5	11 5.2	15 7.1	42 19.8	82 38.7	54 25.5	6 2.8	1 0.5	212 100	1997
	3	西部印度洋	2°— 7°S 45°— 70°E	109								3 0.4	41 5.2	123 15.5	304 38.3	243 30.6	76 9.6	4 0.5		794 100	10479
	1	40°— 45°N 150°—180°E	38°— 42°N 148°—155°E	20									1 50.0				1 50.0			2 100	3

だ	9	35°— 40°N 150°—180°E	34°— 41°N 149°—173°E	160					1 1.6	1 1.6			11 17.5	3 4.8	17 27.0	19 30.2	11 17.5			63 100	77
	10	30°— 35°N 150°—180°E	32°— 36°N 150°—178°E	200							2 2.2		8 9.0	17 19.1	20 22.5	25 28.1	17 19.1			89 100	106
	1	伊豆東方	34°— 35°N 149°—152°E	16									2 40.0	2 40.0			1 20.0			5 100	5
	5	西部太平洋	20°— 25°N 145°—158°E	94				20 3.9	39 7.6	61 12.0	10 2.0	16 3.1	156 30.6	151 29.6	46 9.0	7 1.4	4 0.8			510 100	518

魚種	測定船數	漁　場	操業位置	操業回數		60 cm 以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	計	漁獲尾數
めばち	9	30°— 40°N 180°—140°W	29°— 36°N 180°—146°W	212	尾數 %			1 0.1	5 0.3	264 13.8	297 15.5	283 14.8	89 4.6	75 3.9	411 21.5	350 18.3	85 4.4	46 2.4	9 0.5	1915 100	6343
	4	ミッドウェー	26°— 31°N 179°E-164°W	90		1 0.2	1 0.2	2 0.3	8 1.3	123 20.7	56 9.4	35 5.9	9 1.5	43 7.2	164 27.6	103 17.3	32 5.4	11 1.8	7 1.2	595 100	1540
	2	20°— 30°N 160°—140°W	26°— 31°N 160°—149°W	60					2 0.7	30 11.2	37 13.8	39 14.5	12 4.5	5 1.9	60 22.3	40 14.9	22 8.2	11 4.1	11 4.1	269 100	1614
	1	ハワイ南西 (5°N以北)	7°— 15°N 172°—163°W	27						28 16.9	17 10.2	22 13.3	11 6.6	23 13.9	28 16.9	20 12.0	7 4.2	6 3.6	4 2.4	166 100	571
	2	ハワイ南東	1°— 6°N 161°—142°W	43					2 0.8	3 1.2	2 0.8	36 14.8	30 12.3	18 7.4	29 11.9	38 15.6	39 16.0	25 10.3	21 8.6	243 100	667
	3	トンガ	19°— 33°S 177°—167°W	30						1 1.3	3 3.8	4 5.0	11 13.8	10 12.5	18 22.5	17 21.3	14 17.5	2 2.5		80 100	592
	1	タヒチ	18°— 19°S 143°—138°W	25									3 7.7	8 20.5	11 28.2	5 12.8	6 15.4	5 12.8	1 2.6	39 100	57
	1	南洋北部	17°— 19°N 130°—134°E	10						1 7.7	5 38.5	1 7.7	5 38.5			1 7.7				13 100	52
	1	南洋南部 (170°E以西)	6°— 11°N 158°—160°E	20								4 4.1	17 17.5	35 36.1	33 34.0	3 3.1	2 2.1	3 3.1		97 100	388
	6	ソロモン	1°— 11°S 162°—171°E	72				1 0.4	10 3.8	15 5.7	35 13.4	30 11.5	13 5.0	46 17.6	59 22.6	49 18.8	2 0.8		1 0.4	261 100	410
	10	ニューカレドニヤ	13°— 26°S 144°—180°E	209				1 0.3	1 0.3	42 11.0	38 10.0	13 3.4	26 6.8	61 16.0	59 15.4	72 18.9	52 13.6	14 3.7	2 0.5	381 100	827
	3	小スンダチモール	8°— 14°S 114°—129°E	83						7 3.2	11 5.1	40 18.5	54 25.0	50 23.1	38 17.6	12 5.6	4 1.9			216 100	966

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數		60 cm以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm以上	計	漁獲尾數
めばち	1	中部印度洋	3°— 8°S 72°— 91°E	32	尾數 %				3 2.4	8 6.3	10 7.9	12 9.5	19 15.1	33 26.2	17 13.5	20 15.9	4 3.2			126 100	407
	4	西部印度洋	2°— 9°S 45°— 70°E	140							3 0.9	25 7.4	45 13.4	92 27.3	91 27.0	57 16.9	23 6.8	1 0.3		337 100	2284
	1	40°— 45°N 150°—180°E	38°— 42°N 148°—155°E	20							6 42.9	4 28.6			1 7.1	1 7.1	1 7.1		1 7.1	14 100	15
	14	35°— 40°N 150°—180°E	34°— 41°N 149°—179°E	243				3 0.2	47 3.7	382 29.8	220 17.2	118 9.2	13 1.0	96 7.5	257 20.1	74 5.8	36 2.8	21 1.6	14 1.1	1281 100	2787
	11	30°— 35°N 150°—180°E	32°— 36°N 150°—178°E	217				5 0.5	22 2.2	222 21.9	197 19.4	90 8.9	11 1.1	99 9.8	250 24.6	76 7.5	24 2.4	10 1.0	9 0.9	1015 100	1934
	1	伊豆東方	34°— 35°N 149°—152°E	16						16 17.0	18 19.1	19 20.2		10 10.6	20 21.3	5 5.3	2 2.1	2 2.1	2 2.1	94 100	136
	5	西部太平洋	20°— 25°N 145°—158°E	94		11 1.6	40 5.7	13 1.8	52 7.4	74 10.5	37 5.3	49 7.0	25 3.6	145 20.6	144 20.5	85 12.1	23 3.3	5 0.7		703 100	1374

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		40 cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm以上	計	漁獲尾数
びんな	5	30°— 40°N 180°—140°W	28°— 38°N 178°E-146°W	118	尾数 %						5 2.6	120 61.2	61 31.1	10 5.1		196 100	859
	1	ミッドウエー	26°— 28°N 179°E-177°W	10								2 10.0				2 100	2
	3	トンガ	19°— 33°S 177°—167°W	30				1 0.4		48 21.0	81 35.4	67 29.3	31 13.5	1 0.4		229 100	1126
	1	タヒチ	18°— 19°S 143°—138°W	25						1 1.3	2 2.7	53 70.7	19 25.3			75 100	1394
	1	南洋北部	17°— 19°N 130°—134°E	10								2 16.7	5 41.7	5 41.7		12 100	13
	4	ソロモン	2°— 11°S 162°—171°E	55							18 22.8	53 67.1	8 10.1			79 100	150
	6	ニューカレドニヤ	13°— 24°S 146°—166°E	134						9 2.1	177 40.9	215 49.7	32 7.4			433 100	2961
	1	小スンダチモール	9°— 14°S 114°—127°E	30								3 42.9	3 42.9	1 14.3		7 100	12

が	12	35°—40° N 150°—180°E	34°— 41°N 149°—179°E	211				23 3.3	6 0.9	52 7.6	262 38.1	192 27.9	114 16.6	38 5.5						687 100	2268
	10	30°— 35°N 150°—180°E	32°— 36°N 150°—178°E	197						5 0.8	336 56.8	158 26.7	79 13.3	14 2.4						592 100	3212
	1	伊豆東方	34°— 35°N 149°—152°E	16							14 73.7	5 26.3								19 100	67
	3	西部太平洋	21°— 25°N 152°—158°E	58							35 52.2	8 11.9	4 6.0	19 28.4	1 1.5					67 100	67

Indo

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		120 cm 以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241 cm 以上	計	漁獲尾数
いんどまぐろ	8	小スンダ チモール	8°— 14° S 114°—127°E	189	尾数 %		1 0.1	10 0.9	193 16.7	372 32.2	474 41.1	100 8.7	4 0.3							1154 100	4160
	1	ジヤワ沿海	10°— 12° S 108°—112°E	22					16 27.6	28 48.3	9 15.5	5 8.6								58 100	154

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
くろかわ	8	30°— 40°N 180°—140°W	28°— 38°N 178°E-146°W	200					7 5.5	1 0.8	6 4.7	13 10.2	23 18.1	23 18.1	17 13.4	14 11.0	9 7.1	4 3.1	10 7.9	127 100	139
	4	ミッドウエー	26°— 31°N 179°E-164°W	75				3 3.4	5 5.6	6 6.7	7 7.9	9 10.1	14 15.7	21 23.6	7 7.9	8 9.0	2 2.2	4 4.5	3 3.4	89 100	82 (89)
	2	20°— 30°N 160°—140°W	26°— 31°N 160°—149°W	60						1 5.3		2 10.5	8 42.1	1 5.3	2 10.5	1 5.3	4 21.1			19 100	89
	1	ハワイ南西 (5°N以北)	7°— 15°N 172°—163°W	27	2 3.1	5 7.7	5 7.7	14 21.5	18 27.7	6 9.2	5 7.7	3 4.6	2 3.1	1 1.5	1 1.5	2 3.1			1 1.5	65 100	97
	2	ハワイ南東	1°— 6°N 161°—142°W	43		3 2.0	8 5.4	14 9.5	36 24.5	31 21.1	19 12.9	12 8.2	5 3.4	6 4.1	4 2.7	2 1.4	3 2.0	2 1.4	2 1.4	147 100	234
	1	トンガ	20°— 22°N 169°—167°W	7				1 1.8	17 30.9	17 30.9	16 29.1	2 3.6	1 1.8	1 1.8						55 100	71
	1	タヒチ	18°— 19° S 143°—138° W	25				1 1.4	7 10.1	15 21.5	17 24.6	11 15.9	8 11.6	3 4.3	4 5.8	1 1.4	2 2.9			69 100	552
	7	南洋南部 (170°E以西)	1°S— 10°N 134°—160°E	103	6 1.5	85 21.5	115 29.1	89 22.5	47 11.9	12 3.0	13 3.3	9 2.3	5 1.3	6 1.5	4 1.0	3 0.8	1 0.3			395 100	647
	8	ソロモン	1°— 11° S 144°—168°E	107	9 3.2	35 12.6	53 19.1	62 22.3	49 17.6	21 7.6	6 2.2	11 4.0	14 5.0	7 2.5	3 1.1	2 0.7	2 0.7	1 0.4	3 1.1	278 100	554

[illegible]

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數		130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm以上	計	漁獲尾數
く	13	ニューカレドニヤ	13°— 26°S 144°—180°E	264	尾數 %	1 0.5	1 0.5	15 7.0	35 16.4	55 25.7	28 13.1	23 10.7	11 5.1	17 7.9	12 5.6	6 2.8	8 3.7		1 0.5	1 0.5	214 100	531
	2	バンダフロレス	6°— 7°S 123°—129°E	31		2 4.1	1 2.0	3 6.1	4 8.2	5 10.2	8 16.3	18 36.7	5 10.2	1 2.0	1 2.0				1 2.0		49 100	69
	11	小スンダチモール	7°— 15°S 144°—129°E	262			4 1.1	10 2.8	31 8.6	68 18.8	66 18.2	85 23.5	28 7.7	18 5.0	16 4.4	15 4.1	7 1.9	6 1.7	3 0.8	5 1.4	362 100	624
	2	ジヤワ沼海	9°— 12°S 105°—112°E	39				2 2.3	4 4.5	17 19.3	20 22.7	16 18.2	10 11.4	5 5.7	4 4.5	7 8.0	2 2.3	1 1.1			88 100	115
ろ	1	濠洲西方	16°— 17°S 119°—120°E	14						8 20.0	9 22.5	9 22.5	1 2.5	1 2.5	4 10.0	2 5.0	3 7.5	2 5.0	1 2.5	—	40 100	34 (42)
	1	スマトラ西岸	8°— 10°S 96°—105°E	28				1 1.1	11 11.8	26 28.0	23 24.7	11 11.8	5 5.4	5 5.4	3 3.2	4 4.3	1 1.1	2 2.2		1 1.1	93 100	93
か	1	中部印度洋	3°— 8°S 72°— 91°E	32					1 4.2	6 25.0	2 8.3	5 20.8	3 12.5	3 12.5	1 4.2		3 12.5				24 100	101
	4	西部印度洋	2°— 9°S 45°— 70°E	140				2 2.6	5 6.5	6 7.8	13 16.9	17 22.1	13 16.9	3 3.9	4 5.2	5 6.5	5 6.5	3 3.9		1 1.3	77 100	328
わ	11	35°— 40°N 150°—180°E	34°— 38°N 149°—176°E	196					2 3.0	2 3.0	4 6.1	4 6.1	17 25.8	14 21.2	8 12.1	4 6.1	6 9.1	2 3.0	1 1.5	2 3.0	66 100	66
	12	30°— 35°N 150°—180°E	32°— 36°N 150°—178°E	239						3 3.8	4 5.0	8 10.0	12 15.0	17 21.3	7 8.8	8 10.0	13 16.3	3 3.8	2 2.5	3 3.8	80 100	83
	1	伊豆東方	34°— 35°N 149°—152°E	16							1 20.0			1 20.0	2 40.0			1 20.0			5 100	5
	5	西部太平洋	20°— 25°N 145°—158°E	94		4 13.3	3 10.0	2 6.7		2 6.7			5 16.7	2 6.7	3 10.0	2 6.7	4 13.3	1 3.3	1 3.3	1 3.3	30 100	33

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數	130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm以上	計	漁獲尾數
し	2	30°— 40°N 180°—140°W	28°— 32°N 159°—146°W	46									1 33.3				1 33.3	1 33.3		3 100	3
	2	ミッドウエー	26°— 30°N 180°—166°W	38						1 33.3				1 33.3	1 33.3					3 100	3
	1	ハワイ南東	2°— 5°N 153°—142°W	27							1 25.0	1 25.0			1 25.0				1 25.0	4 100	12

	6	南洋南部 (170°E以西)	1°S— 10°N 134°—159°E	83				4 23.5	2 11.8	4 23.5	3 17.6	2 11.8	1 5.9	1 5.9						17 100	19
ろ	5	ソロモン	1°— 11°S 144°—165°E	77	3 2.3	3 2.3	5 3.9	11 8.5	4 3.1	14 10.9	17 13.2	13 10.1	22 17.1	15 11.6	9 7.0	3 2.3	2 1.6	5 3.9	3 2.3	129 100	561
	14	ニューカレドニヤ	13°— 26°N 144°—180°E	281		1 0.1	34 1.6	171 8.2	197 9.4	241 11.5	285 13.7	271 13.0	261 12.5	215 10.3	134 6.2	62 3.0	38 1.8	35 1.7	142 6.8	2087 100	7051
	3	バンダフロレス	4°— 7°S 123°—129°E	46	2 1.0	12 6.2	38 19.7	29 15.0	13 6.7	12 6.2	33 17.1	19 9.8	13 6.7	11 5.7	7 3.6	1 0.5		1 0.5	2 1.0	193 100	153 (213)
	10	小スンダチモール	7°— 15°S 114°—129°E	251	5 0.9	58 10.1	169 29.3	84 14.6	42 7.3	42 7.3	70 12.1	45 7.8	26 4.5	10 1.7	9 1.6	8 1.4	5 0.9	1 0.2	3 0.5	577 100	872
か	2	ジャワ沿海	9°— 12°S 105°—112°E	39	1 0.5	15 7.9	56 29.3	14 7.3	15 7.9	17 8.9	22 11.5	23 12.0	12 6.3	3 1.6	8 4.2	3 1.6	1 0.5	1 0.5		191 100	203
	1	濠洲西方	16°— 17°S 119°—120°E	14		11 6.9	53 33.1	23 14.4	6 3.8	5 3.1	8 5.0	10 6.3	13 8.1	5 3.1	13 8.1	6 3.8	4 2.5	2 1.3	1 0.6	160 100	245
	1	スマトラ西岸	8°— 10°S 96°—105°E	28		6 5.6	24 22.2	15 13.9	7 6.5	16 14.8	11 10.2	9 8.3	10 9.3	6 5.6	2 1.9		2 1.9			108 100	108
わ	1	中部印度洋	3°— 8°S 72°— 91°E	32			2 13.3	1 6.7				3 20.0	6 40.0	1 6.7	1 6.7			1 6.7		15 100	54
	4	西部印度洋	2°— 9°S 45°— 70°E	140					3 7.3	2 4.9	4 9.8	10 24.4	6 14.6	3 7.3	5 12.2	5 12.2	1 2.4	2 4.9		41 100	176
	1	西部太平洋	24°— 25°N 155°—158°E	16						2 66.7	1 33.3									3 100	6

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數	100 cm 以下	101 — 110	111 — 120	121 — 130	131 — 140	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 — 180	181 — 190	191 — 200	201 — 210	211 — 220	221 — 230	231 cm 以上	計	漁獲尾數
ま	8	30°— 40°N 180°—140°W	28°— 38°N 178°E-146°W	200			4 2.3	5 2.9	26 15.0	32 18.5	51 29.5	11 6.4	21 12.1	18 10.4	5 2.9					173 100	199
か	5	ミッドウェー	26°— 31°N 179°E-164°W	103				3 2.5	29 24.0	29 24.0	47 38.8	6 5.0	3 2.5	3 2.5	1 0.8					121 100	113 (125)
じ	2	20°— 30°N 160°—140°W	26°— 31°N 160°—149°W	60					6 16.7	11 30.6	7 19.4	1 2.8	6 16.7	2 5.6	2 5.6	1 2.8				36 100	76
	1	ハワイ南西 (5°N以北)	7°— 15°N 172°—160°W	27						1 25.0	2 50.0	1 25.0					21 25.3	2 2.4	1 1.2	4 100	21
き	3	トンガ	19°— 33°S 177°—167°W	30					1 1.2				1 1.2	7 8.4	19 22.9	31 37.3				83 100	158

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾数
まかじき	1	タヒチ	18°—19°S 143°—138°W	25											1 50.0	1 50.0				2 100	24
	3	南洋南部 (170°E以西)	5°—10°N 134°—160°E	54						1 25.0	3 75.0									4 100	6
	2	ソロモン	1°—11°S 162°—168°E	35											5 38.5	7 53.8	1 7.7			13 100	21
	10	ニューカレドニヤ	13°—26°S 146°—166°E	214						3 0.7	1 0.2	3 0.7	5 1.1	28 6.1	134 29.1	162 35.2	107 23.3	13 2.8	4 0.9	460 100	1203
	1	バンダ フロレス	3°—6°S 123°—129°E	15					1 12.5	2 25.0	5 62.5									8 100	8
	11	小スンダ チモール	7°—14°S 114°—129°E	248				17 1.7	211 21.1	119 11.9	220 22.0	145 14.5	187 18.7	90 9.0	9 0.9	2 0.2	1 0.1			1001 100	1400
	2	ジヤワ沿海	9°—12°S 105°—112°E	39					32 31.4	13 12.7	15 14.7	5 4.9	15 14.7	19 18.6	3 2.9					102 100	98 (120)
	1	濠洲西方	16°—17°S 119°—120°E	14				1 0.5	24 12.0	13 6.5	50 25.0	33 16.5	58 29.0	15 7.5	6 3.0					200 100	150 (200)
	1	スマトラ西岸	8°—10°S 96°—105°E	28				5 4.1	8 6.5	6 4.9	17 13.8	28 22.8	42 34.1	17 13.8						123 100	123
	1	中部印度洋	3°—8°S 72°—91°E	32								3 6.8	10 22.7	24 54.5	7 15.9					44 100	234
	4	西部印度洋	2°—9°S 45°—70°E	140				2 1.6	3 2.3	3 2.3	11 8.5	19 14.7	44 34.1	30 23.3	17 13.2					129 100	452
	1	40°—45°N 150°—180°E	38°—42°N 148°—155°E	20									1 10.0							1 100	1
	15	35°—40°N 150°—180°E	34°—40°N 149°—179°E	263	3 0.2	2 0.1	48 2.7	76 4.3	286 16.2	341 19.3	681 38.5	138 7.8	132 7.5	47 2.7	12 0.7	1 0.1				1767 100	1846
	10	30°—35°N 150°—180°E	32°—36°N 150°—178°E	202				4 0.4	149 14.5	239 23.2	400 38.9	109 10.6	86 8.4	32 3.1	5 0.5	2 0.2	2 0.2			1028 100	1051
	2	伊豆東方	31°—35°N 150°—178°E	31					8 7.8	22 21.4	47 45.6	12 11.7	10 9.7	4 3.9						103	126
	2	南海海区	33°—34°N 137°—138°E	14				1 6.7	4 26.7	3 20.0	6 40.0		1 6.7							15 100	15

	6	西部太平洋	20°— 29°N 135°—158°E	180		3 1.6	9 4.9	2 1.1	7 3.8	64 34.6	50 27.0	45 24.3	3 1.6	1 0.5	1 0.5					185 100	210

魚種	測定船數	漁　　場	操業位置	操業回數		80 cm 以下	81 — 90	91 — 100	101 — 110	111 — 120	121 — 130	131 — 140	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 — 180	181 — 190	191 — 200	201 cm 以上	計	漁獲尾數
めかじき	7	30°— 40°N 180°—140°W	29°— 38°N 178°E-146°W	176	尾数 %			2 5.7	4 11.4	3 8.6	4 11.4	3 8.6	2 5.7	4 11.4	5 14.3	3 8.6	1 2.9		4 11.4	35 100	59
	5	ミッドウエー	26°— 31°N 179°E-164°W	103					1 9.1	2 18.2	2 18.2	4 36.4	1 9.1			1 9.1				11 100	16
	1	ハワイ南東	2°— 5°N 153°—142°W	27			1 16.7					1 16.7		1 16.7	1 16.7	1 16.7		1 16.7		6 100	10
	1	トンガ	19°— 22°S 177°—175°W	10					1 20.0	1 20.0		1 20.0		1 20.0	1 20.0					5 100	9
	2	南洋南部 (170°E以西)	3°— 10°N 134°—143°E	23							1 25.0	1 25.0	1 25.0				1 25.0			4 100	5
	3	ソロモン	1°— 11°S 162°—165°E	41					1 7.7	1 7.7	2 15.4	6 46.2		1 7.7	1 7.7	1 7.7				13 100	17
	6	ニューカレドニヤ	13°— 26°S 144°—166°E	117						5 6.6	6 7.9	2 2.6	7 9.2	15 19.7	14 18.4	8 10.5	11 14.5	2 2.6	6 7.9	76 100	112
	2	バンダフロレス	3°— 7°S 123°—129°E	31						5 27.8	3 16.7	5 27.8		1 5.6	1 5.6	1 5.6		1 5.6	1 5.6	18 100	21
	8	小スンダチモール	7°— 15°S 114°—127°E	163		1 2.2	1 2.2	2 4.4	4 8.9	11 24.4	8 17.8	5 11.1	4 8.9	5 11.1		2 4.4	2 4.4			45 100	50
	1	ジャワ沿海	10°— 12°S 108°—112°E	22								1 50.0				1 50.0				2 100	2
	1	スマトラ西岸	8°— 10°S 96°—105°E	28				1 9.1			2 18.2	2 18.2	1 9.1	3 27.3		1 9.1	1 9.1			11 100	11
	1	西部印度洋	2°— 7°S 45°— 67°E	34						1 14.3	1 14.3		2 28.6		3 42.9					7 100	17
	1	40°— 45°N 150°—180°E	38°— 42°N 148°—155°E	20					1 1.5	9 13.2	5 7.4	14 20.6	8 11.8	11 16.2	7 10.3	6 8.8	5 7.4		2 2.9	68 100	70
	13	35°— 40°N 150°—180°E	34°— 41°N 149°—176°E	225				2 0.5	5 1.1	22 5.0	21 4.8	44 10.0	62 14.1	85 19.3	92 20.9	49 11.1	33 7.5	9 2.0	16 3.6	440 100	623
	11	30°— 35°N 150°—180°E	32°— 36°N 150°—178°E	215				5 4.5	2 1.8	8 7.1	18 16.1	21 18.7	21 18.7	6 5.4	8 71	7 6.2	8 7.1	3 2.7	5 4.5	112 100	123

魚種	測定船數	漁　場	操業位置	操業回數		80 cm 以下	81 —90	91 — 100	101 — 110	111 — 120	121 — 130	131 — 140	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 — 180	181 — 190	191 — 200	201 cm 以上	計	漁獲尾数
めかじき	2	伊豆方南	31°— 35°N 143°—152°E	31	尾數 %			1 4.8			2 9.5	5 23.8	6 28.6	3 14.3	2 9.5	1 4.8	1 4.8			21 100	29
	2	南海々区	33°— 34°N 137°—138°E	11				1 7.7	1 7.7	4 30.8		1 7.7	2 15.4	2 15.4		1 7.7			1 7.7	13 100	14
	2	西部太平洋	20°— 29°N 135°—152°E	36							2 40.0				2 40.0	1 20.0				5 100	7

鮪類漁場別價格　昭和32年3月（三崎）

農林省神奈川統計調査事務所三崎駐在所
農林事務官　佐藤　務

水揚船及び水揚量の構成

今月の鮪類は殆ど鮪延縄によつて占められ、その水揚隻数は68隻（50屯以上）で昨年3月と全く同じである。この鮪延縄に若干の「竿ビン」を加えた総水揚量は約139万〆（冷凍物、直送物を除く）でこの水揚量も昨年と略々同量である。

イ、屯数階層別、操業漁場別

水場船を屯数階層別でみると大型船（300屯以上）24隻、中型船（200—299屯）5隻小型船（50—199屯）39隻となり、昨年3月に較べ大型船5隻増、中型船1隻減、小型船4隻減となつている。

操業漁場別では大型船の操業漁場の主体がィWから南東Eに移つたことが、今月は大きな變動として特筆されよう。ィWに代つた南東Eの大型操業船は今月17隻で、盛況を続けたィWは7隻となつているが、これを昨年3月でみるとィW15隻、南東E（現漁場より西寄り）3隻、南S1隻、である。中小型船にあつては漁場により多少の増減はあるが大した変化はなく、今月の操業漁業別内譯は南S13隻、南N10隻、ィE9隻、東W9隻、北1隻、近海2隻である°

水揚量の大部分を占める大型船の漁場の變動から、今月の漁場別總水揚量は南東Eが最も多く58万〆に達した。この他ではィW16万〆、イE7万〆強、南N8万〆、南S24万〆強、北2万〆弱、東W10万〆、竿ビンを含む近海2万〆強となつている。今月のインド洋はW、E合せて33万〆であるが、これは昨年3月に較べ51万〆の減であり、この減少分が南東Eの増加分となつた°

ロ、魚種別

主な魚種別水揚量はキハダ52万〆、メバチ38万〆、クロカワ（シロカワを含む）28万〆、インドマグロ8万〆、ビンナガ4.6万〆（竿ビンを含む）マカジキ1.6万〆で昨年3月よりキハダで12万〆減、メバチ9万〆増、クロカワ7萬〆増である。

魚價概況

例年この月では鮪類にとつて暮、正月に次ぐ好値時期のようであるが、今年もビンナガを除く魚価は旬により殊によかつた。この好値については、下火になつたとはいえ一般の好況も一因として擧げられようが、この月上中旬が各地大物類の出廻り低調で近海も少なかつたことにより魚価が高騰したゝめとも考えられようである。三崎においては、この上中旬、さほど水場は少なくはなく、この上中旬の好値が（下旬はメバチ、キハダ水揚急増もあつて急落をみたが）この月の魚価を決定づけた。

この月の近海物等を除く主要魚の總平均価格は360円で、これは昨年12月の362円

に2円差で迫る高値であるが、昨年12月の主要魚の大部分はインド洋物であつたことを考慮しなくてはならない。因み今月の各漁場別の主要魚の総平均価格（第4圖参照）を昨年12月に比較してみると次の通りである。

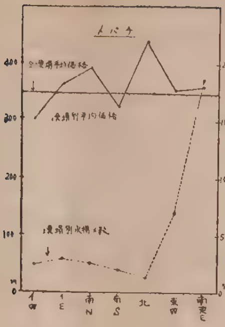
イW — 11円高　イE — 3円高　南N — 63円安
南S — 5円安　東W — 28円高　北 — 78円安
南東E — 21円安

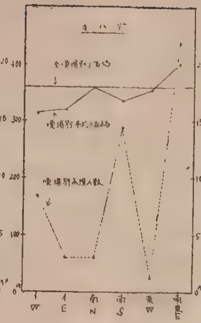
上質物の多い北及び南Nは12月程の値は出ず、急増した南東Eは安くなり、逆に急減したインド洋物は若干の値上をみている。東Wはかなりの値上りとなつているが、此は主要魚の大部分であるメバチの水揚が好値の上旬に比較的多かつたゝめである。先月中旬末あたりより漸次水揚は減少し、下押だつた魚価は再び上押状態となり、この月に入り上旬始めは水揚増で保合状態の日もあつたが、大勢は各地大物類の出廻り薄等で魚価は强調、上旬のメバチ、キハダは先月下旬比2割高の高騰をみ、クロカワにあつても若干値上りとなつた。中旬はメバチ、キハダ共に若干水揚減で上伸を續け上旬比更に1割弱の値上りを示した。しかしクロカワにあつてもこの中旬、上旬比水揚倍増となり、上旬比1割安の下落となつた。南東Eの他は概ね空調であつた。中旬におけるメバチ、キハダの高値振りは昨年12円を凌ぐ程のものであつたが、中旬末あたりより水揚ようやく増加となり、各地出廻りも好転、ブリ等の好漁もあつて魚価は下押を続けた。この下旬はメバチ、キハダ共中旬比10萬〆の増加で両者共中旬比2割強安の急落となつた。クロカワは水揚減で中旬比若干の値上りをみ持直した南東E、良質物あつて比較的高値であつたイWを除き、他はみなやゝ軟化した。

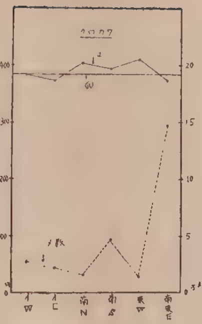
漁場別価格

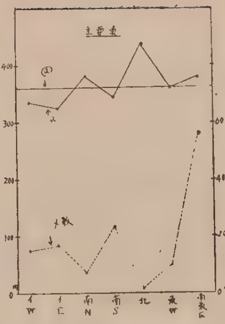
メバチ——北の最高値は尤もながら、その水揚は中旬のみの水揚であつて昨年3月に較べ105円高である。南Nは小型船による鮮度良好物も多く、これも上旬は水揚僅少であつたが、中旬に水揚が集中したゝめかなりの高値となつた。他漁場では下旬、中旬比2—3割方の安値となつたが、この南Nにあつては僅かな値下りにとゞまつた。この2漁場に續いてのイEの比値は奇異に考えらるが、これは上旬及び中旬にこの漁場の8割が水揚されていることがこの好値となつた大きな原因である。下旬には第1表にもある通り水揚は減少し、中旬比101円安の急落をみたが、昨年北では55円高となつた。安値時期の下旬に水揚の多かつたイW、南Sは昨年イW5円高にとゞまり、南Sは若干安値である。東Wは中旬水場は少なく、下旬より上旬の水揚多く比較的好値であつたが昨年比これも若干安値となつた。南東Eにあつては第1表にある通り、旬別ではその価格は上位であるが、下旬は上、中旬それぞれ3萬〆の水揚量に対し12萬〆と急増したので急落、月間の価格ではさほど高値とはならず昨年比略々同値にとゞまつた。

キハダ——メバチと同じく各漁場共旬別の価格差は大きいが、各漁場の旬別水揚量はメバチ程偏つていないので、月にまとめた漁場別価格の差はさほど水揚時に左右されていないようである。唯イWの上旬が良質物もあつて高値であつたことは擧げなく









てはならないが、このイWは高値の中旬に水揚殆どなく月間の価格は最も低い。しかしこのイWの昨年比は10円高である。イEは10円安と逆に昨年比では安くなつている。また旬別にみた南Nと南Sの価格差は10円程もないが、南Sが旬別に平均した水揚であつたのに対し南Nは中旬にこの漁場の7割の水揚があつたので、月間の価格差は22円と開いた。このため昨年比では南Nは若干の値上りとなつたのに對し、南Sは同値に終つた。東Wは中旬水揚僅少ながら良質物あつてかなり高値であつたので昨年比若干の値上りである。南東Eは高値の中旬にかなりの水揚もあり下旬の急落を補い400円台を堅持したので、昨年比では1割方の値上りをみた。

今月における單なる魚種別価格では、このキハダは昨年比46円高となつているが、こゝで述べたように漁場別にみれば、南東Eを除く他は昨年比大した値上りとはなつていないようである。

クロカワ——魚価概況で述べた通り、メバチ、キハダとは逆に中旬が水揚多く、漁場によつてはこの中旬に値下りをみたが、メバチ、キハダ程旬別の価格差は大きくない。もつともこのクロカワは漁場別にも価格差は余りないが……。

イEはシロカワが混つている関係で、南東Eは中旬水揚急増で大きく下落したゝめ共に月間の価格は最低となつた。この南東Eは中旬の安価のため昨年比でも他漁場では1—1.5割方の値上りをみているのに対し1割弱の値上りであつた。したがつて先月比でも他漁場は50円以上の値上りであるが、この南東Eは38円高であつた。

こゝに圖示してないが以上3種の他では

ビンナガ——縄物は今月326円で先月比11円高、釣物は314円で16高としり高ではあるが月々値上りを續けている。

マカジキ——水揚量は全く少く、漁場別では水揚の多かつたイWが461円で昨年比105割高、あとは14〃—24〃程度ではあるが南東E 424円、東W 352円、南S 339円等があり、昨年比かなりの値上りとなつている。

インドマグロ——昨年3月に較べ水揚量は倍増となつているが、300圓頂度で昨年比17円高である。

以上の通り單なる魚種別の価格ではビンナガを除き一應昨年比高値となつているとはいえ、漁場別でみると一概に高値とはいえぬものもあるようである。

漁場を或程度細分類しなければ、漁場別価格も無意味もあるので※註にあるように

細分した。しかし細分すると1漁港でのみの調査では悉皆調査とはいえ、各漁場の調査對象船がしぜん少なくならざるを得ない、魚価が月を通じ大した高低がなければよいが、今月のメバチ、キハダの価格にみられるように旬別の差の大きいときは、月の平均価格といつても、水揚時の偏りによつて特例的なものゝ出る可能性が強くなる。このため漁場別価格の比較といつても、月にまとめた平均価格の差は漁場対漁場の差よりも、水揚時対水揚時の相違によつて左右される傾向があるので、この漁場別価格の比較も、せめて旬別にまでもつていかぬと無意味になるおそれもある。第1表はその旬別価格である。

※註　この調査では冷凍物、直送物を除いてある。

第4圖は漁場別主要魚（ビンナガ、メバチ、キハダ、マカジキ、クロカワと今月からイEにはインドマグロを加えた）の總平均価格と漁場別總水揚量である。

漁場分類

イW — アラビヤ、西印、セイロン、中印の4海區
イE — アンダマン、ニユバル、スマトラ西岸、濠洲西方、ジヤワ沿海、バンダ、フロレス、小スンダ、チモール、の6海區
南N — 旧南洋庁沿海北部、同南部（170°E以東を除く）フイリッピン東海、セレベスの4海區
南S — ソロモン、ニユーカレドニヤの海區
北 — ミッドウエー、20—30°N • 160°—140°Wの2海區とその北方
東W — ハワイ南西海區（旧南洋庁沿海南部170°E以東を加える）
東E — ハワイ南東海區とその東方
南東W — サモア、トンガの2海區
南東E — 0°—15°S • 160°—140°W、タヒチの2海區とその東方

……

3rd voyage Atlantic

相模丸による大西洋鮪漁場開發事業第三次航海の概要

神奈川県水産試験場漁撈部

月日	回數	位置	氣象海象						海獲物					縄数	漁獲高	備考
			天候	氣圧	氣温	風向力	水温	波浪	キハダ	メバチ	ピンナガ	カジキ	合計			
4-30	1	02—21 N 15—11W	b	1008	28.0	SSE 2	29.2	1	282	2	5		296	380	5,277.5	4月14日 ベニス発
5- 1	2	02—00 N 16—02W	c	1008	28.3	S/E 2	29.3	2	180		22		202	200	3,000	
2		02—02 N 15—52W	c	1008	28.0	SSE 2	28.0	2								
3	3	01—39 N 17—03W	c	1008	27.7	SSE 2	28.4	2	80	1	17	2	100		1,320	
4	4	01—44 N 17—03W	bc	1008	28.0	SSE 2	28.4	1	184	2	20		206	340	2,800	
5	5	01—55 N 16—53W	c	1009	27.0	SSE 1	28.8	1	86	1	29	4	120		1,700	
6		01—46 N 19—18W	c	1009	26.3	SE 1	28.4	1								
7		02—03 N 19—49W	c	1009	26.2	SE 3	27.9	2								
8	6	01—47 N 17—37W	bc	1009	27.0	SSE 3	28.8	3	129	12	15	4	160	370	2,350	
9	7	02—00 N 16—52W	c	1010	27.0	SSE 2	28.5	2	70	3	10	11	94	380	1,600	
10	8	02—00 N 16—05W	c	1009	27.0	SSE 2	28.8	2	129	5	7	8	149	380	2,400	
11	9	01—58 N 16—08W	c	1008	27.0	SSE 3	27.6	3	98	2	4	3	107	380	1,700	
12	10	01—37 N 16—08W	c	1007	27.5	SSE 3	28.4	3	59	6	7	9	81	330	1,500	
13		01—37 N 15—40W	bc	1005	27.5	SSE 4	28.6	4								適水

14		01—34 N 10—49W	bc	1004	28.0	SSE 3	28.3	3								適　水
15	11	01—41 N 08—23W	c	1005	28.0	SSE 3	28.6	3	466	1	21		488	380	7,100	
16		01—47 N 08—29W	bc	1006	27.6	SSE 3	28.8	3								漂　泊
17	12	01—48 N 08—14W	r	1007	27.2	SE/S 3	28.5	3	175		9		184	320	3,500	
18	13	01—48 N 08—11W	c	1007	28.0	SSE 2	29.1	2	173				173	250	3,000	
19		01—59 N 08—23W	c	1008	28.5	SSE 2	28.7	3								都合で漂泊
20		01—58 N 06—08W	c	1008	27.0	SSE 3	27.6	3								
21		01—39 N 08—43W	bc	1008	28.0	SSE 3	29.2	3	都合によりブラジル向け航行（5月29日バイアー入港）							
								計	2,118	35	166	41	2,360	約	37,250	

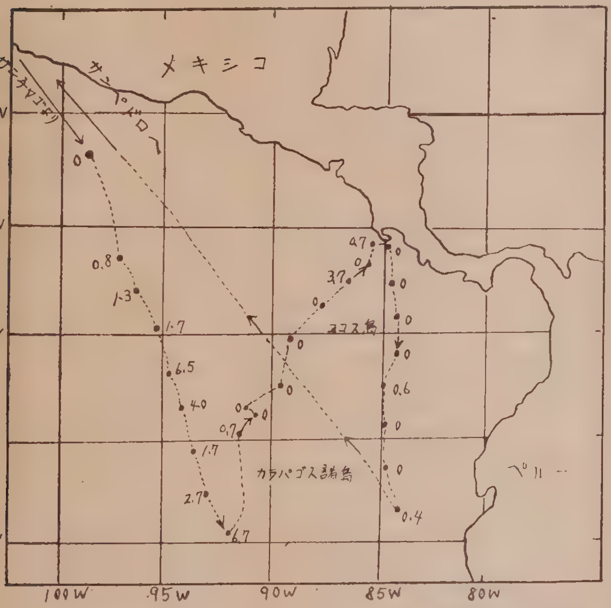
中南米太平洋岸沖合のマグロ漁況と海況について

—（1）—

神奈川県水産試験場漁撈部

印度洋，太平洋の赤道をはさむ南北10度の海域で，日本の鮪延縄漁船が未だ充分に操業したことのない海域といえば，太平洋の東部だけになってしまった。他は到らざるなしである。近時印度洋の鮪の漁獲低下は著しいものがあり，このため大西洋と東部太平洋の鮪漁場が大きくクローズアップされて来た。又事実この海域に出漁する鮪延縄漁船もふえて来ている。そこでこの海域を試験調査した，カルフォルニヤ州魚類狩猟局所属のスコフィールド号の資料や，この海域と関係の多いペルー海流や，ここで漁獲された鮪類の水揚状況その他について述べてみるのも無意味ではないように考える。

第 1 図　N.Bスコフィールド号航跡図



数字は漁獲率（キハダ，メバチ）•は試験操業位置を示す

スコフィールド号は第1図に示すように，1953年1月23日から3月18日の55日間に亘り，ガラパゴス諸島周辺の中南米沖合を鮪延縄漁具をもって26ケ所試験操業を行った。この時用いた漁具の構成は日本のものと大差なく下記の如きものであった。

枝縄本数	6本付	
〃　間隔	30尋	
幹縄の長さ	210尋	
枝縄の長さ	14尋	計　18尋
せきやまワイヤーの長さ	3尋	
釣元ワイヤーの長さ	1尋	
浮縄の長さ	10尋	

使用鉢数は1回平均45鉢で，キハダ76尾，メバチ78尾，バセウカジキ及びマカジキ78尾，サメ類238尾，その他18尾の漁獲をあげている。この時の平均漁獲率は下記の如くであった。

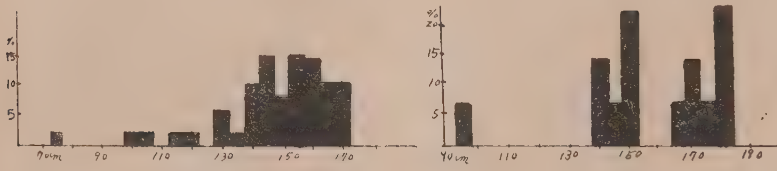
キハダ	1.07%	
メバチ	2.23%	
マカジキ	1.10%	（バセウカジキを含む）
サメ	3.33%	
その他	0.27%	
計	7.08%	

又これらキハダとメバチの体長組成は第2図の通りであるが，キハダでは凡そ160cm（16貫位）のものが多く，メバチで凡そ150cm（23貫位）のものと170cm（28貫位）が多かった。

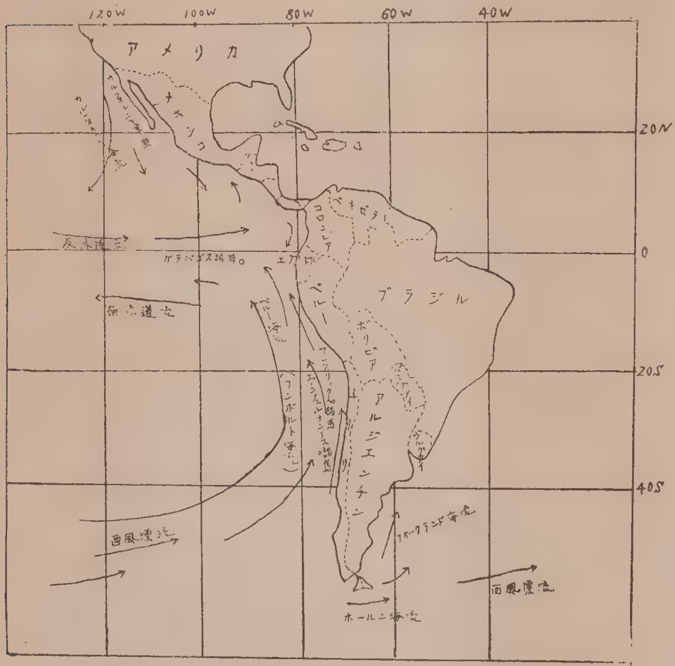
次にこの海域に密接な関連を持つと思われるペルー海流について述べてみると，ペルー海流は第3図に示すように，南太平洋における西風漂流が南アメリカ大陸の西岸にあたり，その一部が北進する海流で，南赤道流の補充海流となっている。これは南極洋の寒冷な水を北上せしめ南アメリカの気候を左右している。ペルー海流はそれを始めて調査研究した人の名にちなんで，フンボルト海流ともいわれている。運ばれて来る総水量はあまり多くなく，流れの南限は南緯35度で，距岸約900kmの所とみられ，北限は赤道のすぐ南にあり，そこから西に流れている。ペルー海流は，南アメリカ大陸岸近くを流れるものをペルー沿岸流といい，外側のものをペルー外洋流といっているが，一

般に外洋流の流速は小さい。ペルー海流についてはペルー，エクアドルの沿岸流は比較的よくわかっていて，沿岸流内の湧昇が著しいことも知れている。この湧昇とはチリー及びペルーの海岸に沿って南乃至南南東からの風により，軽くて暖かい表層流が沖合に運ばれるために，40m～360m（平均133m）の間にある冷水が湧き昇ることをいっているのである。そしてこれは魚類の餌であるプランクトンの発生を旺盛にするため好漁場を形成する。この湧昇のために上層との水温の逆転を示すことがあり，これに伴って密度分布が変るため，沿岸に平行な流れに影響を及ぼすことになる。このような場所が南緯3度から南緯33°の間に4ケ所位あるといわれるが，最も強勢なものは南緯5度と南緯15度の間にみられ，温暖部と冷水域とが互に舌状に伸びている。そしてこの舌状部は湧昇の渦に関連している。初冬（4～6月）には北方の渦の岸の方に向っている分枝がよく発達し，南緯9度から南緯12度の間では高温水を岸近くにもたらす。これは沿岸域の生物を死滅させる働きがある。11月～2月には実際上湧昇なはく，ペルーとチリーの海岸では亜表層の反流が南に流れており，これは赤道に起源をもつもので100m以浅の深さにあるが南下するにつれて沈下して南緯26度では約300mに認められる。躍層については第4図の如く北ほど浅くエクアドル西岸では100m以浅で，南緯36度では300～400mになるものと思われる。南緯25度以北では亜表層の反流の塩分は，表面水のそれより低く，南緯25度以南ではその逆になっている。従って湧昇流はペルー沿岸沖では比較的低塩分の水をもたらし，チリー沿岸沖ではその逆となるわけである。

第 2 図

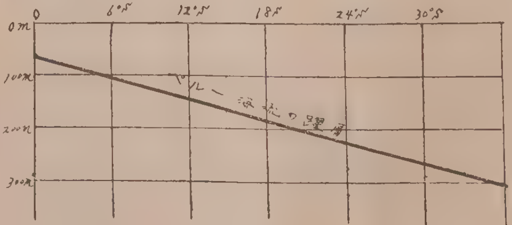


第 3 図


120W
100W
80W
60W
40W
20N
0
20S
40S
アメリカ
メキシコ
反赤道流
ガラパゴス諸島
エクアドル
ベネゼラ
コロンビア
南赤道流
ペルー
ブラジル
ボリビア
ペルー海流
フンボルト海流
サンフェリックス諸島
ファンフェルナンデス諸島
アルゼンチン
フォークランド海流
西風漂流
ホールン海流
西風漂流

次にこの海域で操業したカルフォルニヤの鮪漁船の水揚について述べると，第5表の通りとなる。この漁場はガラパゴス諸島近海，エクアドル沖合，カルフォルニヤ半島の南東沖合，チリーの沖合にあるサンフェリックス諸島，ファフェルナンデス諸島沿海である。

第 4 図



第5表によると次のような傾向があることが定推出来る，即ち北緯7度30分以南の漁場は1949年に始めて操業をはじめられたにもかかわらず，5年後の1954年には他の海区を合せたものよりか遥かに多く，全体の5割以上を占めるに至った。このことはこの海区が有望漁場であるという証明になる。又ガラパゴス諸島はそのせまい海区にも拘らず，多量の鰹，鮪類を生産している。この原因は湧昇による豊富なプランクトンの発生

第 5 表

年次	魚種	北緯7度30分以南（ガラパゴス島を除く）		ガラパゴス島		北緯7度30分より北緯16度30分まで		小計		総計	
		lb	貫	lb	貫	lb	貫	lb	貫	lb	貫
1945	鰹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	キハダ	—	—	682,425	78,479	—	—	682,425	78,479	682,425	78,479
1946	鰹	—	—	649,136	74,651	—	—	649,136	74,651	—	—
	キハダ	—	—	5,344,826	614,655	—	—	5,344,826	614,655	5,993,962	689,306
1947	鰹	—	—	638,140	73,386	112,864	12,979	751,004	86,365	—	—
	キハダ	—	—	6,603,408	759,392	597,893	68,758	7,201,301	828,150	7,952,305	914,515
1948	鰹	—	—	1,463,975	168,357	93,890	10,797	1,557,865	179,154	—	—
	キハダ	—	—	14,048,410	1,615,567	761,632	87,587	14,810,042	1,703,155	16,367,907	1,882,309
1949	鰹	996,898	114,643	10,393,243	1,195,223	11,382,966	1,309,041	22,773,107	2,618,907	—	—
	キハダ	3,192,749	367,166	23,590,209	2,712,874	32,224,513	3,705,819	59,007,471	6,785,859	81,780,578	9,404,766
1950	鰹	5,837,452	671,307	23,841,989	2,741,829	41,006,722	4,715,773	70,686,163	8,128,909	—	—
	キハダ	8,519,585	979,752	23,398,324	2,690,807	71,546,620	8,227,861	103,464,529	11,898,421	174,150,692	20,027,330
1951	鰹	9,663,629	1,111,317	29,558,137	3,399,186	39,477,266	4,539,886	78,699,032	9,050,389	—	—
	キハダ	45,838,081	5,271,380	18,301,874	2,104,716	57,454,948	6,607,319	121,594,903	13,983,414	200,293,935	23,033,803
1952	鰹	25,036,839	2,879,236	12,886,798	1,481,982	5,151,239	592,392	43,074,876	4,953,611	—	—
	キハダ	70,373,295	8,092,929	6,452,407	742,027	39,019,006	4,487,186	115,844,708	13,322,141	158,919,584	18,275,752
1953	鰹	50,802,429	5,842,279	17,025,271	1,957,906	10,647,081	1,224,414	78,474,781	9,024,600	—	—
	キハダ	24,488,564	2,816,185	7,994,252	919,339	33,772,810	3,883,873	66,255,626	7,619,397	144,730,407	16,643,997
1954	鰹	59,994,619	6,899,381	15,432,245	1,774,708	42,707,547	4,911,368	118,134,411	13,585,457	—	—
	キハダ	42,923,447	4,936,196	10,516,804	1,209,432	29,485,926	3,390,881	82,926,177	9,536,510	201,060,588	23,121,967

に負う処大であると考えられる。しかし生産量は1951年をピークとして総体的に減少している。北緯16度30分から北緯7度30分までの海区は比較的安定した生産量をもっているが，それでも漸減の傾向が窺える。そしてカルフォルニヤに水揚された鮪鰹類の総量は1951年，1954年が高最であった。

次にカルフォルニヤの餌竿釣漁船の航海（出港から入港までの合計日数）1日当りの漁獲量及び操業1日当りの漁獲量については第6表及び第7 表の如くなる。

第 6 表　（航海 1 日当りの漁獲量）

船の大きさ	400トン以上					400トン～300トン				
年次	調査した航海数	キハダ		鰹		調査した航海数	キハダ		鰹	
		lb	貫	lb	貫		lb	貫	lb	貫
1945	1	15,326	1,762	—	—	5	11,384	1,309	22	3
1946	15	8,574	986	879	101	33	8,563	985	890	102
1947	18	7,360	846	605	70	59	6,639	763	780	90
1948	17	6,575	756	959	110	70	7,089	815	961	111
1949	20	7,623	877	2,418	278	57	6,714	772	2,178	250
1950	22	6,594	758	4,085	470	65	5,219	600	3,001	345
1951	20	7,291	838	3,300	380	51	7,160	823	3,718	428
1652	20	3,677	423	2,859	329	56	3,958	455	1,970	227
1953	27	2,038	234	3,505	403	67	2,326	267	3,483	401
1954	30	3,291	378	5,693	655	79	3,081	354	5,008	576

第 7 表　（操業 1 日当りの漁獲量）

船の大きさ	400トン以上					300トン～400トン				
年次	調査した航海数	キハダ		鰹		調査した航海数	キハダ		鰹	
		lb	貫	lb	貫		lb	貫	lb	貫
1945						1	25,706	2,956	0	
1946	6	18,284	2,103	1,439	165	14	17,880	2,052	1,670	192
1947	2	11,294	1,310	7	1	37	12,987	1,494	1,415	163
1948	3	7,606	875	295	34	38	12,878	1,481	1,731	199
1949	3	15,203	1,748	2,313	266	31	13,717	1,577	3,744	431
1950						37	10,036	1,154	5,544	638
1651	13	23,244	2,673	8,774	1,009	43	17,837	2,051	8,448	972
1952	20	5,646	649	5,327	613	40	7,053	811	3,749	431
1953	16	4,270	491	6,173	710	53	4,582	527	6,763	778
1954	24	7,015	807	11,646	1,339	68	6,455	742	10,440	1,201

第6，7表によるとキハダの1日当り漁獲量が毎年減っているのに対し，鰹の1日当り漁獲量がふえてきている。これはキハダを漁獲する方法が竿釣ではむずかしく且つ密集しなくなってきたのではないかとも考えられるのである。1日当りの漁獲量は1950，1951年をピークとしてそれ以降の漁獲量は全体としては減っ

て来ている。又操業日数当りの漁獲量と航海日数当りの漁獲量を比較してみると，延縄漁船のように一定した割合をみいだすことは出来ず不規則である。これは延縄漁法と竿釣漁法の特徴をあらわしているとも考えられるのである

以上総括的に考えられることは，この漁場主として北緯7°30分以南特にガラパゴス諸島周辺及びエクアドル沖合の海底隆起部は竿釣り漁場としては現在でも有望な漁場である。しかし躍層が他の海域に比べて浅いので延縄漁法では或程度考慮する必要がある。又アメリカ漁船の重要な漁場の一つであるので，ここで操業する場合は充分漁船としてのエチケットを守り国際問題等起さぬよう細心の注意が必要ではなかろうか。

（未完）

第28黒潮丸坂井通信士からのイタリアだより

去る4月横須賀を出港1ヶ年間の予定で大西洋漁場に向った日魯漁業第28黒潮丸の通信士坂井真澄君より同船最初の水揚地シシリー島から寄せられた通信である（原文のまま）

拝啓　内地では初夏の候その後もお変りなく益々御健勝の事と存じます。シンガポールより印度洋に出て東経70度の赤道洋上にて21黒潮丸に会合し，6月1日にはスエズを通過しました。それよりシチリア島の西端に散在する一つの小島ファビニアに6月6日入港時化一つ無い順調な航海でした。スエズも戦の跡は見られなく，運河入口より北上する左側には綺麗な道路が沿い，緑の並木が降りそそぐ太陽を一杯に受けていました。その日は日本の船は本船だけで，9割が1万トン級のタンカーで各国の国旗が賑やかなものです。入口に錨泊し，検疫，税関，運河通航手続きに，各々異った服装で入れ変り30名ばかり来船し，サロンの無い本船は無線室をもっぱら専用しましたが応接に大変です。特に英会話の出来ないのには困ってしまいました。手続きを済ませパイロット1名，ボートマン3名，ライトマン1名来船，手続を終った10隻ばかりが前後2百メートル位いの間隔で入口に入り，約1時間ばかり入った所に相当大きな湖に入り，そこで錨泊し，イスマイリヤ無線（ＳＵＱ）420kc の指令を待ち8隻の船団となり本船は6番目でした。或る所は低地で沼の様にあしがあり，或る所は乾燥した砂丘で風により円みを帯びていました。夕暮れは舞い上った黄砂により真黄な太陽となり，やがて急激に気温が下ります。ポートサイドまで途中パイロット3名変り，きらびやかな町の灯を後に地中海に入ります。内地の秋ににた天候となり朝晩は冷えて寒くなります。相変らずの凪で6日フアビニアに入りました。手続にイタリヤ語で又一苦労でしたが幸い三菱商事より1名来船しスムーズに行った様です。税関がうるさく1日1人50本の割宛とし残りのタバコは全部封印してしまいます。夕刻上陸，早速子供達にとり囲まれてジャポーネジャポーネ，シガレットシガレットです。どこまでもついて来て店に入りビールを飲んでもついて来て，対日感情は上々です。町の物価はやはり文化物は高く，飲食物は割合安様いでした。ビール1本125リラ（日本金6に対しイタリヤ10リラ）床屋200リラ，映画100リラ，旅館1泊600リラです。狭い町で同じ所を2回も3回も廻って，しまいには農家の方へ行ったり山に登ったりしました。同封のパノラマ工場へ1日1万5千貫位ずつはしけで荷役し，3日で全部揚げ終りました。がすぐ向うに見える島の中間で鮪の大網(定置)があり，色々めんどうな事を言って来ます。例えば魚のくづを捨てると網に入らなくなるから50マイル沖へ捨ててくれ等，大網でも30〜50貫時には60貫位いの油の乗った良いのが毎日2〜3万貫揚ります。朝食を取りやおら9時頃網に行き午後2〜3時頃帰り日曜日は休みで全くのんびりしています。荷役の方もすべてマンマンデーイです。一見日本では漁師の下町の様な人達も夕刻になるとネクタイをし，背広をキリッときて見まちがえそうです。日本人程良く働く人種は無いとつくづく感じられました。12日フアビニアを後に只今メッシナに向っています。もうすぐそこまで来ました。ここで仕込みをしアフリカのアルジェリヤ（都合でイタリヤでは補給出来ない由）で油を補給し愈々大西洋に向います。お蔭様で元気でやっています。漁撈長の部屋に事業主任の亀井さんと二人で特等席と言う訳で何一つ心配する事なく専心無線従事に，漁撈に励んでいます。ではこの辺で，取り急ぎお知らせまで。

敬　具

6月13日　　メッシナにて　　坂井真澄

鮪漁業研究会皆々様

業界メモ

1957年6月

5月31日　第2回英水爆……クリスマス島南方640キロのモールデン島附近で5メガトン級大型水爆の実験を実施

6月2日　直輸出マグロの検査問題……業界では伊太利，南米等の直輸出マグロに検査官の派遣を要望

6月3日　日台合弁鮪漁業の計画……永福産業では台湾政府当局と高雄基地の合弁鮪漁業計画につき折渉中

6月5日　オーレオマイシン氷……以西底曳漁業に対するオーレオマイシン氷使用の検討協議会で水産側と厚生省が対立

6月8日　日セ合弁漁業を更に推進……海外漁業協力会は，300屯型漁船1隻をセイロンに送り，更に500屯冷蔵庫，加工施設，造船，機関修理工場等の建設を計画

6月12日　ブラジルの缶詰工場建設計画……東光丸の漁場調査の結果ブラジル政府はリオ・グランデに缶詰冷凍冷蔵工場を外国の援助で建設を計画中

6月17日　鰹，鮪40屯以下は自由……第22回中央漁業調整審議会で40屯以下の鰹，鮪は自由操業と決定

6月17日　日米鮪会談8月に……まぐろについての日米の共同宣伝並びに研究機関設置についての会談は8月15，16日ロスアンゼルスで開催の予定

6月17日　タルタウ島基地調査……水産庁長谷川漁政，林漁港両課長はタルタウ島漁業基地建設の具体的討議のため出発

6月18日　鮪魚価暴落（三崎）……輸出ビンチョウ買上価格の暴落から全面的に暴落平均230〜250円

6月24日　試験調査船の調査統一……水産庁では地方公庁試験船の調査を統一するため調査実施要項案を発表

6月24日　大日本水産会長に高崎氏……大日本水産会では会長に高崎達之助氏を選任

6月26日　ケニヤ基地不可能か……大西洋鮪漁業の燃料補給基地として予定されていたケニヤのモンバサ港は英中東軍司令部がキプロス島から移動するため不可能視されるに至つた

6月26日　中型鰹，鮪の代船は70屯まで認む……20〜40屯の中型鰹，鮪漁業の許可船の代船又は増屯数70屯迄の大型化が認められた

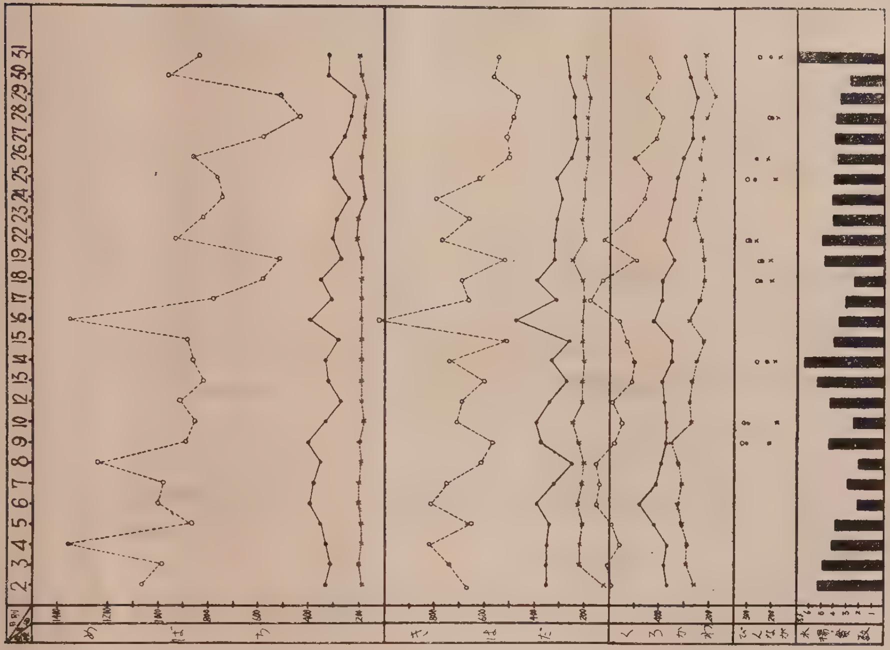
6月27日　以西底曳のオーレオマイシン氷使用許可……厚生省では以西底曳のねり製品原料用の魚類に限り百万分の5以下の含有量のオーレオマイシン氷の使用を許可す

6月30日　大西洋鮪格下低下……地中海黒マグロの盛漁期に入り伊太利の鮪買入価格は屯当り275ドル（〆当り平均¥350円）の公定価格を割り経費の割高，漁獲高の変動が大きい等から出漁船は前途多難の模様

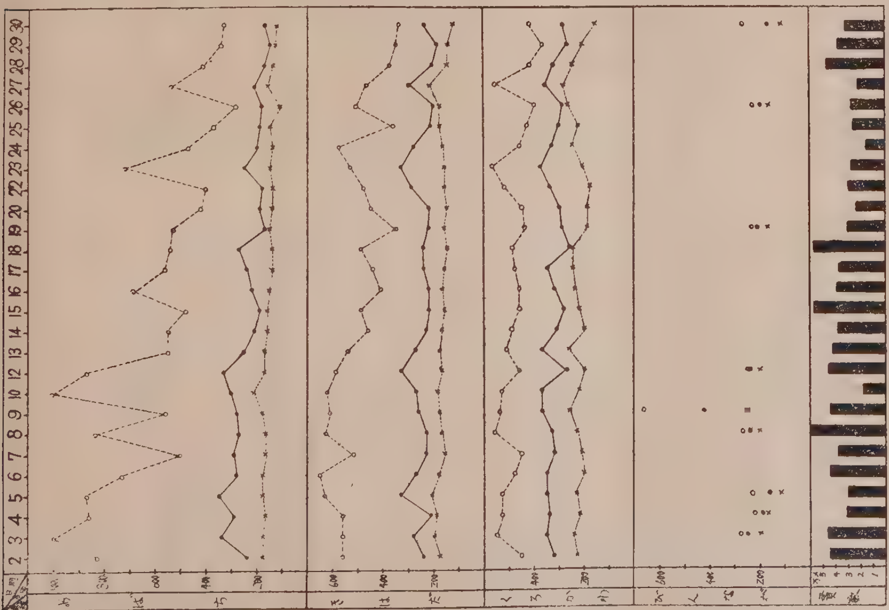
鮪漁業
1957年7月号

昭和32年7月10日印刷
昭和32年7月10日発行
監修　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　菅野進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発行所　鮪漁業研究会
（振替貯金口座横浜　1472）

鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十二年五月



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十二年六月



——お願い——

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は、本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

◎予ねてより取纒中でありました鮪類水揚地調査報告の昭和30年度版は昭和28年度、昭和29年度分と共に鮪漁業教書として関係の方々には是非座右に備付けられるようお薦め致します。御希望の向は代金 300 円（送料を含む）を添えて本会宛御申込下さい。

◎大変恐縮ですが会費第２年目（昭和30年分）第３年目（昭和31年分）未納の方は本会宛払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。

◇

営業品目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造
装備・補修一式

七洋電機株式会社

取締役社長　満本英一
取締役　橋本清
取締役　長田孝

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地
電話荏原（78）4103番

新工場落成量産開始

太洋無線が世界に誇る

各種 陸上用 航空機用 船舶用

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都渋谷区衆楽町48番地
電話渋谷(46)代表5283—9番

まぐろ延縄には漁材科学の生んだ

比重調整と樹脂加工を併用した延縄

アサヒテツクスロープ を御使用下さい

特徴
① コールタール染不要
② 着色自由 ③ 比重の適正
④ あらゆるロープの中で耐久耐摩耗力は一番すぐれております。

アサヒテツクスロープ株式会社

本社 東京都三鷹市下連雀四〇〇番地 電話 武蔵野 3978 番
出張所 神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地 電話三浦957番

※ **説明資料は当鮪漁業研究会に御申込下さい** ※

営　業　種　目

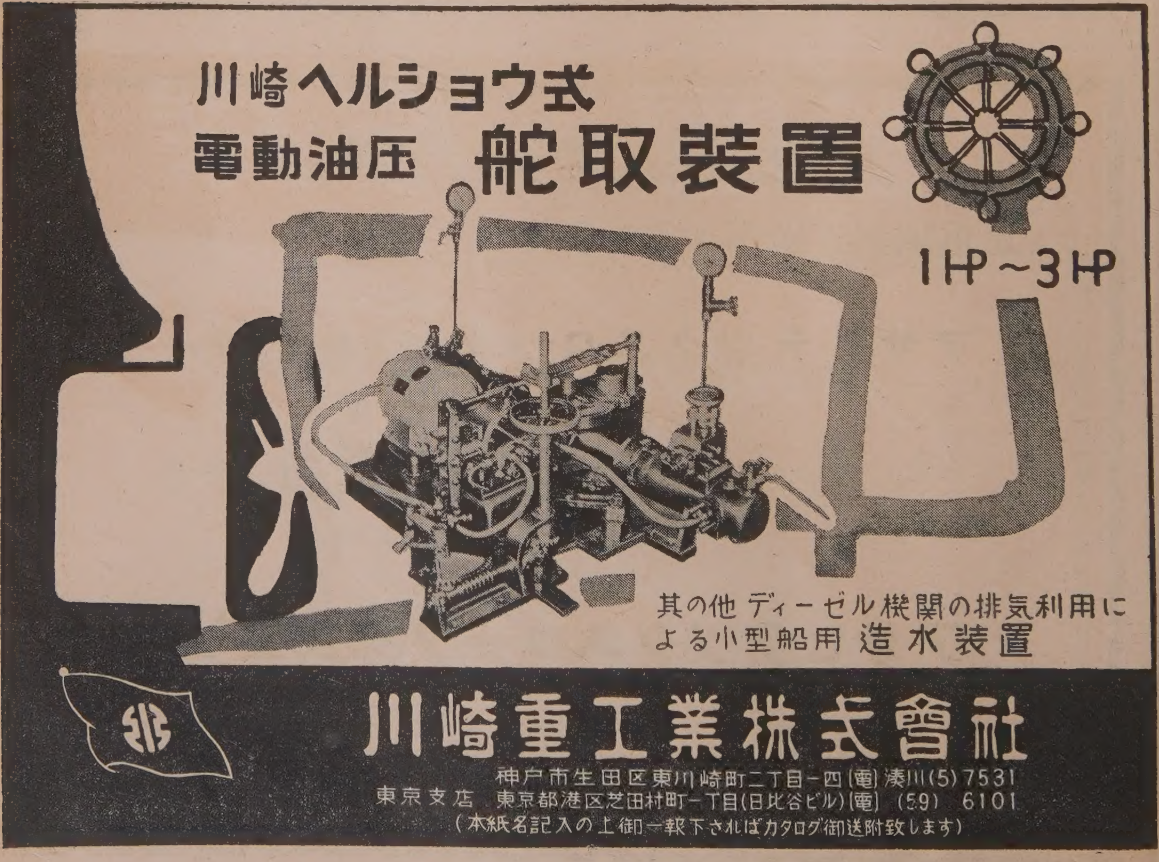
船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵
設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話下谷（83）0996番



川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

1HP～3HP

其の他ディーゼル機関の排気利用による小型船用造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四〔電〕湊川(5)7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)〔電〕(59) 6101
（本紙名記入の上御一報下されば カタログ御送附致します）

〝水産技術者必携の書〟

◉画期的『漁業用語英和辞典』出現す!!

農林省水産講習所漁業学科の多年に亘る研究と努力によって集大成された真に生きた必携辞典である。

◆包容語数………………本文約 5,000語
附録約　500語

和文索引，度量衡換算表などを附加する。

10糎×17糎のポケット版，約260頁，表紙は溜色ビニール張り，金文字入の美本。

◆発刊予定期日……………昭和32年11月上旬

◆予約価格 1部につき送料共………約 400 円

◆予約註文受付期限………昭和32年 8 月末日

但し限定出版につき予約註文申込数が予定数に達した場合はこの期限前でも受附を中止することがあるので予め御了承下さい。

印刷の鮮明，装本の堅固，体裁の優美であることは，当社技術陣の矜りとするところで関係各位の予約註文を期待しています

下関市永田本町1499
農林省水産講習所漁業学科内
漁業用語英和辞典刊行会

印刷製本者
下関市長崎町2281
瞬報社写真印刷株式会社

専門別執筆者

漁具材料，漁具構成関係	高瀬増男，谷口武夫
沿岸漁業関係	片岡昭吉
遠洋漁業関係	鶴田三郎，角田精一
航海，運用，漁船関係	杉原喜義，橋本市雄，広瀬　誠
漁場，海洋，気象関係	佐藤猛郎
生物関係	前田　弘
時事其の他一般	鶴田三郎
執筆並びに文献に対し種々便宜を賜った人	朝日向昇平，桜井五郎，千種正則，豊田正謙，巻幡竹夫，渡辺享

校閲者

専門用語	江良至徳
英語	勢一　斐
其の他の外国語	国分直一

編集者

鶴田三郎

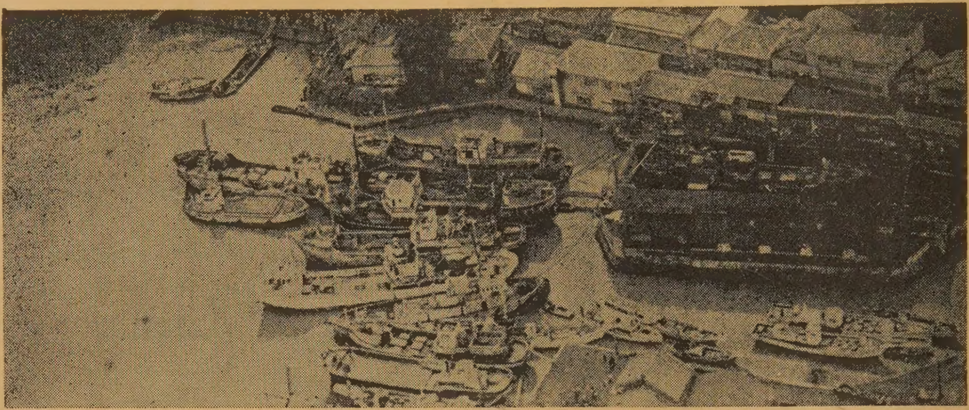
光電の方探
Koden のロラン
Koden Electronics Co. Ltd.
KDN

株式會社 光電製作所

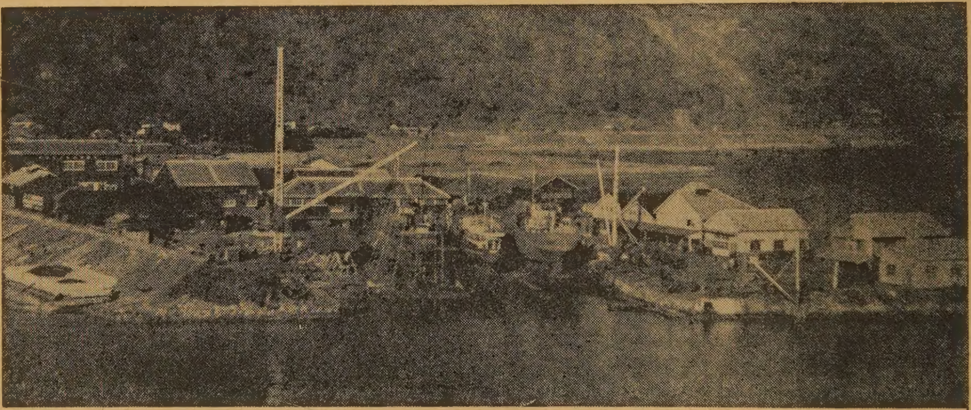
東京都品川区上大崎長者丸284の1
電話白金(44)代表1131～7番

昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可

漁船の建造修理の御相談は



総噸数五〇〇噸
長五一米　巾一〇米　深四・五米
ドライドツク　一



長四〇米　巾七・五米（四〇〇屯）
船台に使用の場合
二条軌条式　（二五〇屯）　二
四条軌条算盤式（五〇〇屯）　二
船架（船台兼用）

下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社工場　電話下田 9・10・53　武ケ浜工場　電話下田 77・242
東京事務所　港区芝田村町4の13　電話（43）2539・8655

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町